

平成25年度 橿原市文化財調査年報

平成25年度 [2013年度]
橿原市文化財調査年報

奈良県橿原市教育委員会

奈良県橿原市教育委員会
2015年3月

序

橿原市には特別史跡 藤原宮跡をはじめとする多くの遺跡や重要伝統的建造物群保存地区に選定されている今井町など、数多くの文化財が所在します。世界に誇るべき長い歴史と文化が育まれた場所と言えます。

この年報では、平成25年度に行いました遺跡の発掘調査、文化財保護事業、普及啓発事業等の概要を報告いたします。

本書が、市民をはじめ多くの方々に、橿原市の文化財に触れていただく良い機会となれば幸いです。

なお、事業を実施するにあたりまして、ご協力いただきました方々ならびにご指導賜りました関係諸機関及び諸氏には心より感謝申し上げます。

平成27（2015）年3月

橿原市教育委員会

教育長 吉本重男

例 言

1. 本書は、奈良県橿原市教育委員会事務局生涯学習部文化財課が、平成 25 年度に実施した下記事業の概要をまとめたものである。
 - I . 埋蔵文化財発掘調査事業
 - II . 出土遺物保存処理事業
 - III . 文化財諸申請処理業務
 - IV . 普及啓発事業
 - V . 史跡整備事業
 - VI . 指定文化財維持管理事業
 - VII . だんじり保存事業
2. 各事業の調整事務は、竹田正則、濱口和弘、中川明彦、米田 一、泉岡康子、大北与織が主に行い、他の課員が補佐した。また、I . 埋蔵文化財発掘調査事業、II . 出土遺物保存処理事業については、その担当者を後記文中に記した。
3. I . 埋蔵文化財発掘調査事業のうち、藤原宮跡、新堂町試掘確認調査、東池尻・池之内遺跡の各調査は、平成 25 年度市内遺跡発掘調査等事業（平成 25 年度国宝重要文化財等保存整備費補助：国庫補助事業）として実施した。また、II . 出土遺物保存処理事業の遺物保存処理、V . 史跡整備事業も同補助事業として実施した。
4. I . 埋蔵文化財発掘調査事業にあたっては、森田弘氏、イオンモール株式会社、から多大なご理解とご協力を賜った。記して感謝の意を表すところである。
5. 事業実施にあたり、次の機関及び諸氏からご指導とご協力を賜った。記して感謝の意を表すところである。
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所都城発掘調査部、奈良県教育委員会文化財保存課、奈良県立橿原考古学研究所、石野博信、木下正史、白石太一郎、菅谷文則、玉田芳英、杉山洋、豊岡卓之（個人名は敬称略、五十音順）
6. I . 埋蔵文化財発掘調査事業の挿図における座標値は世界測地系座標である。
7. 本書の編集は、課員の協力のもと石坂泰士が行った。

目 次

序

例言・目次

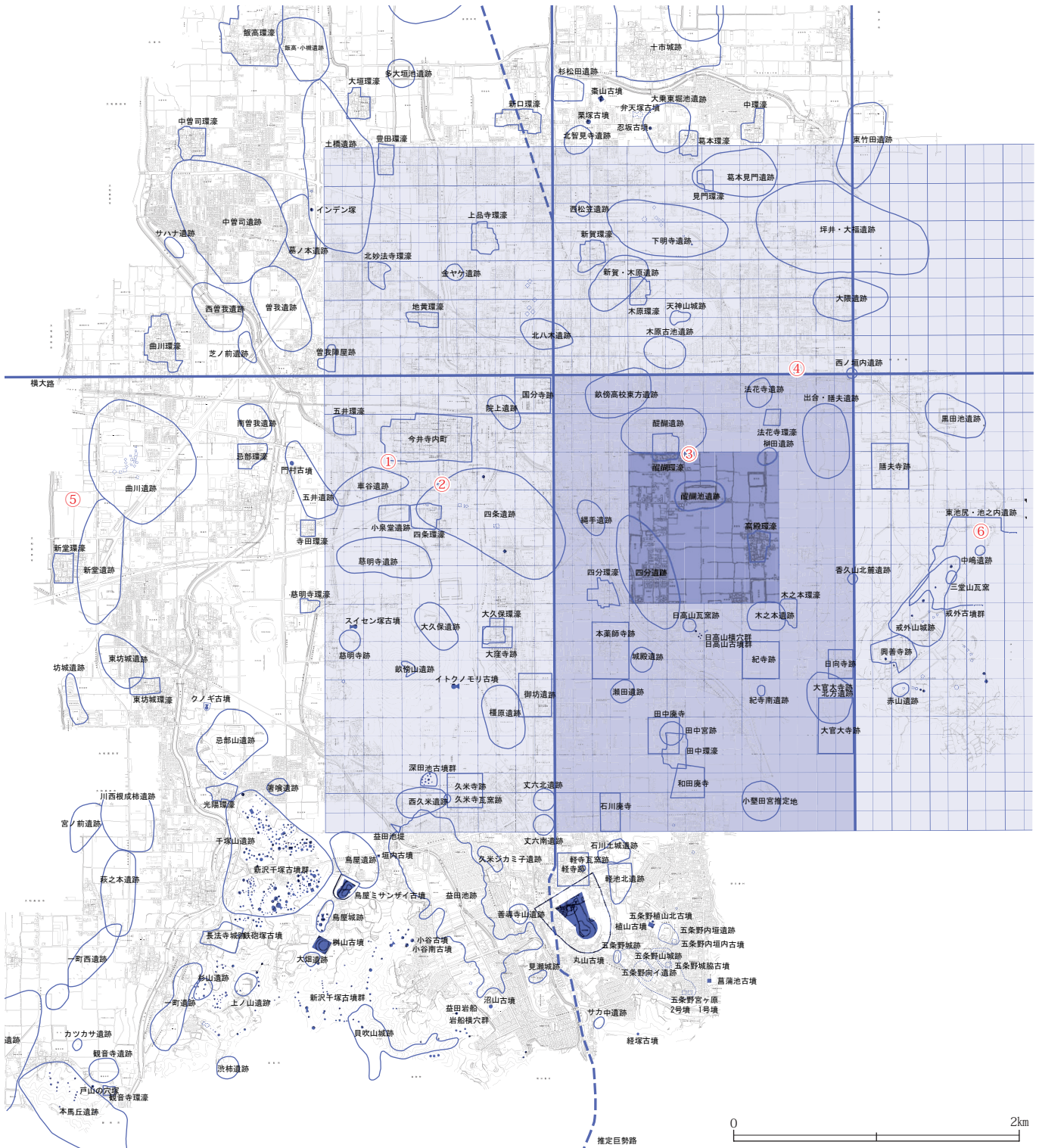
I . 埋蔵文化財発掘調査事業	1
平成 25 年度埋蔵文化財発掘調査一覧表	1
平成 25 年度埋蔵文化財発掘調査地位置図	1
埋蔵文化財発掘調査概要報告	2
大藤原京右京三条九坊、今井寺内町（橿教委 2013 - 1 次）	2
大藤原京右京三・四条八坊、四条遺跡（橿教委 2013 - 2 次）	8
藤原宮跡（橿教委 2013 - 3 次）	20
大藤原京左京北一条三坊、横大路（橿教委 2013 - 4 次）	26
新堂町試掘確認調査（橿教委 2013 - 5 次）	34
大藤原京左京五条八坊、東池尻・池之内遺跡（橿教委 2013 - 6 次）	58
II . 出土遺物保存処理事業	68
III . 文化財諸申請処理業務	69
IV . 普及啓発事業	69
V . 史跡整備事業	76
VI . 指定文化財維持管理事業	77
VII . だんじり保存事業	77

I.埋蔵文化財発掘調査事業

平成25年度 埋蔵文化財発掘調査一覧表

No.	調査回数	遺跡名	調査地	調査面積	調査期間(平成)
①	2013 - 1次	大藤原京右京三条九坊、今井寺内町	今井町3丁目地内	35.0㎡	25.7.8~25.7.25
②	2013 - 2次	大藤原京右京三・四条八坊、四条遺跡	四条町地内	152.5㎡	25.9.4~25.10.25
③	2013 - 3次	藤原宮跡	醍醐町236番1の一部	60.9㎡	25.7.30~25.8.8
④	2013 - 4次	大藤原京左京北一条三坊、横大路	石原田町地内	60.6㎡	25.11.5~25.12.10
⑤	2013 - 5次	新堂町試掘確認調査	新堂町189番1外	1488.0㎡	25.12.16~26.2.28
⑥	2013 - 6次	大藤原京左京五条八坊、東池尻・池之内遺跡	東池尻町地内	310.0㎡	26.2.3~26.3.19

調査回数は、発掘調査開始順(一部準拠しないものもある。)に当教育委員会が付したものである。またNo.は下図の数字と対応している。



平成25年度 埋蔵文化財発掘調査地位位置図 (S=1/40,000)

埋蔵文化財発掘調査概要報告

榑教委 2013 - 1 次

大藤原京右京三条九坊、今井寺内町

調査地 今井町三丁目地内

調査期間 平成 25 年 7 月 8 日～平成 25 年 7 月 25 日

調査面積 35 m²

調査原因 市道路改良工事（畝傍駅前通り線）

1. はじめに

今回の調査は市道畝傍駅前通り線の改良工事に伴う発掘調査である。調査地は近鉄榑原線八木西口駅から南西に約 800 m の地点に位置する宅地である。

今井町の中心部は 1993 年に重要伝統的建造物群保存地区に指定されており、今回の調査地はその南西隅の外側に接する位置である。今井町は戦国時代から江戸時代にかけての時期に発展した寺内町で、町の周囲に濠を巡らせた環濠集落である。町の南西部には濠が 3 重に巡らされていたことを古絵図や発掘調査によって確認している。濠は 16 世紀後半に一度埋められ（旧環濠）、16 世紀末以降に規模を縮小しつつ再度掘削されている（新環濠）ことをこれまでの発掘調査で確認している。

調査地の北側に接する市道は、濠を埋めて築かれた道路である。市道に接する今回の調査地も古くは濠の範囲内であった可能性が考えられた。今回の調査地から北西に約 35 m の地点では町西辺の旧環濠外濠の西肩を確認している（榑教委 2011 -

6 次調査）。また、細田家所蔵・今井町絵図（榑原市指定文化財。17 世紀後半）には調査地の近辺に南から環濠南西隅に接続する南北水路が描かれている。

この他、調査地周辺では藤原京期の遺構が存在することも発掘調査で確認している。

2. 調査の概要

調査区は敷地内に埋設されている下水道管等を避ける位置に設定した。調査は遺構面までの掘削と排土の搬出を重機で行い、残る作業は人力で進めた。

調査区の基本的な層序は以下のとおりである。

I 層：造成土（厚さ約 0.7 m。上面の標高 61.7 m、調査区北隣の道路面とほぼ同一）

II 層：暗青灰～緑灰色微砂混じり砂質土（厚さ約 0.4 m。近世～近代の盛土か）

III 層：灰～灰黄色砂質土、褐灰色粘質土（厚さ約 0.25 m。古代～中世の耕作層。上面が上層遺構面。上面の標高 60.6 m）

IV 層：褐灰色・灰色混じり明黄褐色粘質土（厚さ約 0.1～0.2 m。藤原京整地層。上面が下層遺構面。上面の標高 60.35 m）

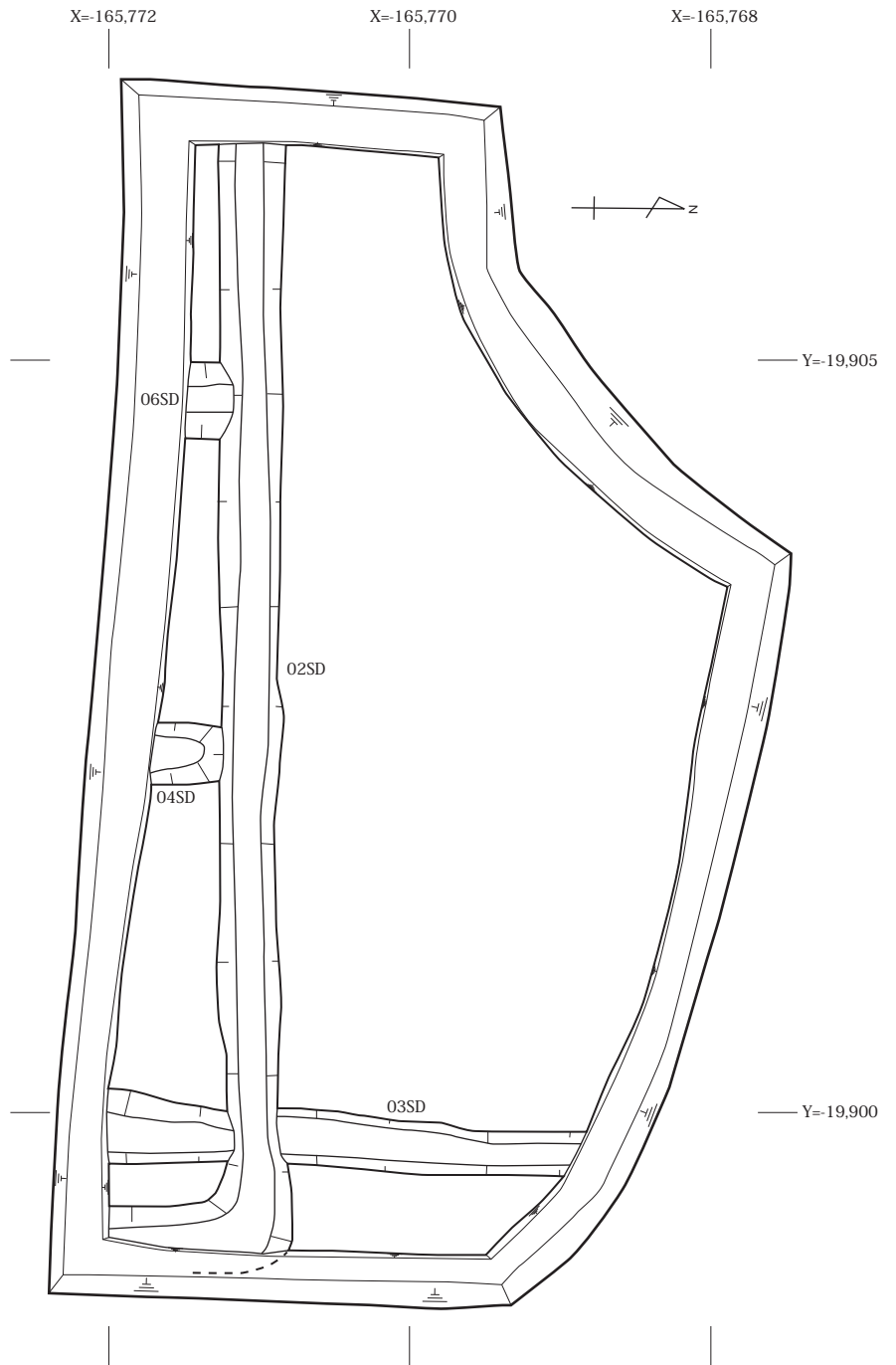
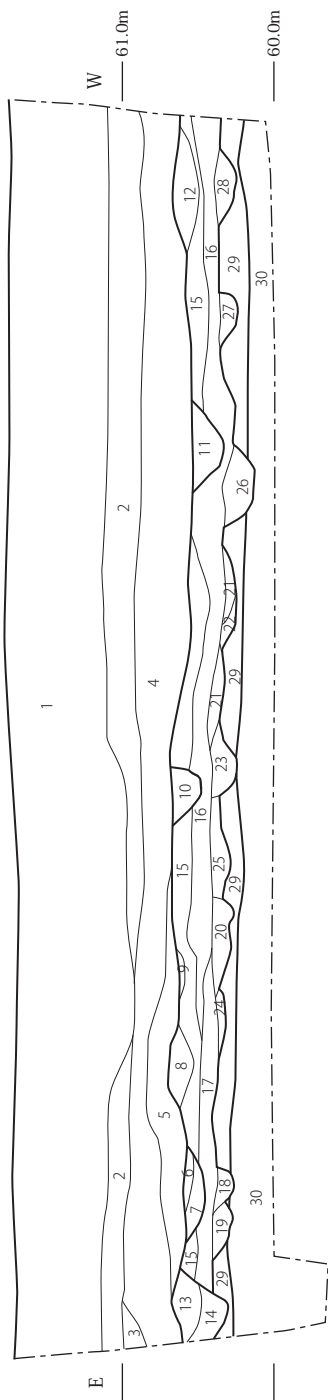
V 層：淡黒褐色土（厚さ 0.6 m 以上。基盤層）

遺構は III 層上面（上層遺構面）および IV 層上面（下層遺構面）で検出した。遺構の時期は上層遺構が中世末～近世のいずれかの時期、下層遺構が中世であると考えられる。II 層からは少量ながら近世以降の土器・瓦が出土した。



図1 発掘調査地位置図 (S=1/3,000)

調査区南壁土層断面



- 1 : I層 (現代造成土)
- 2 ~ 5 : II層 (近世)
- 6 ~ 14 : 上層遺構埋土
- 15 ~ 28 : III層 (古代~中世耕作土)
- 29 : IV層 (藤原京整地層)
- 30 : V層 (地山)



図2 調査区南壁土層断面図・上層遺構完掘平面図 (S=1/50)

上層遺構として溝4条(02・03・04・06SD)を検出した。いずれも素掘りの溝である。

02SDは幅約0.4m、深さ約0.35mを測る。東西に伸び、調査区南東隅で南に直角に折れ曲がる。陶器、須恵器、土師器が出土している。03SDは幅約0.3～0.6m、深さ約0.15mの南北溝で、北側ほど幅が狭くなる。03SDは02SDより古い遺構である。04SDおよび06SDは幅約0.4～0.5m、深さ約0.2mの南北溝で、北端は02SDと合流する。

上層遺構からの出土遺物は下層に由来すると考えられる須恵器・土師器が中心で、明確に近世以降と考えられる遺物は数が限られる。

下層遺構として、いわゆる中世素掘り耕作溝であると考えられる溝12条を検出した。いずれも南北方向の溝で、幅約0.2～0.4m、深さ最大約0.2mを測る。土師器、須恵器、瓦器が出土している。

藤原京期については整地層を確認したのみで、他に遺構は存在していないが、上層遺構および下層遺構からは藤原京期の土器も出土している。

3. まとめ

今回の調査では、上層遺構(中世末～近世)と下層遺構(中世)の2時期の遺構が存在することを確認した。

今井町の濠については調査区内には存在せず、外濠の南肩は調査地よりも北側(現在の市道部分)に位置すると考えられる。調査地は濠の外側の道路部分にあたると考えられ、上層遺構も道路に関連する遺構である可能性がある。その場合、02SDは南側の土地(耕作地か)との境界であると考えられる。上層遺構は中世末から近世のいずれかの時期であり、新旧いずれの環濠と対応する時期の遺構であるのかは不明である。

古絵図・文書には濠に付属する土居や道路を、濠に堆積した泥土の土揚げ場としても利用していたことが記録されている。微砂・砂混じりの盛土を主とするⅡ層は、主としてこの揚げ土で構成されていると考えられる。

また、絵図で確認できる町の外から濠に接続する南北水路についても、調査区内には存在しない。調査地と西隣の敷地との間には現在も幅約1mの南北水路があり、これが概ね当初の規模を踏襲していると考えられる。

下層遺構は中世の耕作溝のみであり、耕作地としての利用が主であったようである。

藤原京期については遺構こそ無いものの、調査区全域に整地層が存在し、上層からは当該期の遺物が出土している。調査地の周辺に藤原京期の遺構が存在する可能性は高いと考えられる。(石坂泰士)



写真1 上層遺構検出状況 - 南西から -



写真2 調査区全景・今井町南側道路 上層遺構完掘状況 - 西から -



写真3 上層遺構完掘状況 - 南から -



写真4 下層遺構（耕作溝）検出状況 - 西から -



写真5 下層遺構（耕作溝）完掘・藤原京整地層検出状況 - 西から -



写真6 完掘状況・調査区北～東壁断面 - 西南西から -

大藤原京右京三・四坊八坊、四条遺跡

調査地	榎原市四条町地内
調査機関	平成 25 年 9 月 4 日～平成 25 年 10 月 25 日
調査面積	152.5 m ²
調査原因	市道畷傍駅前通り線改良工事

1. はじめに

調査地は、市立今井小学校から南に約 100 m の地点、国道 166 号線の北側隣接地に当たり、現況は宅地となっている。

調査地は、藤原京の中でも大藤原京と呼ばれる範囲に含まれているだけでなく、四条遺跡に含まれている。四条遺跡は藤原京の造営にあたり、削平された古墳群が検出された遺跡である。本調査地周辺においても、本調査地から約 50 m 北側の地点において、同事業に係る平成 23 年度調査（榎教委 2011 - 8 次）で金銅製耳環が出土し、当該地が四条古墳群に含まれる可能性が想起された。そこで本調査では、藤原京に関連する遺構だけでなく、古墳群に関連する遺構の検出が想定された。

2. 調査の概要

調査区は、道路予定地のうち、住宅や店舗の入口、水路を避けて南北に 2ヶ所（北区・南区）設定した。調査は、多量の地下水の湧出により調査区壁面が崩落する危険性があった

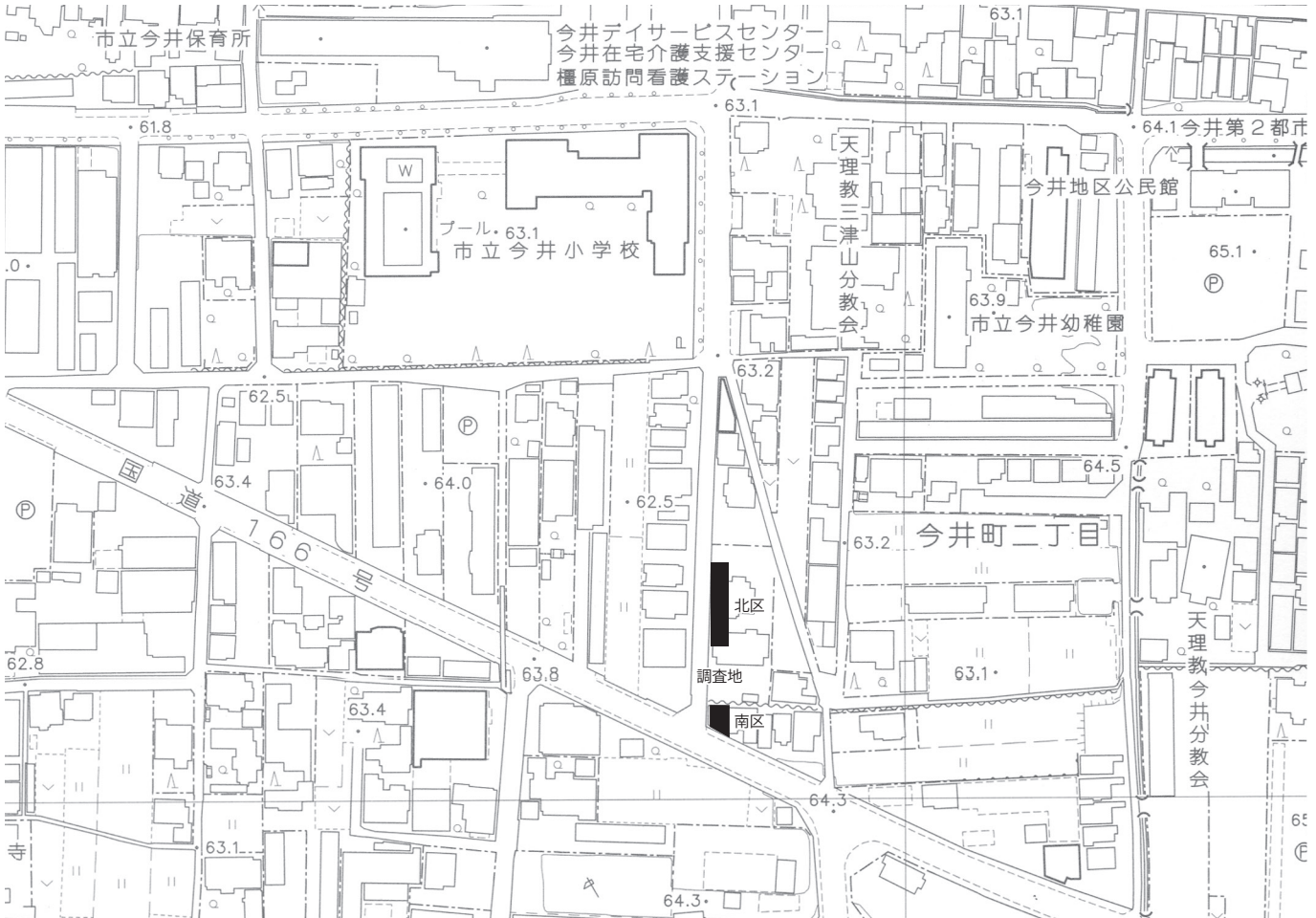


図3 発掘調査地位置図 (S=1/2,500)

め、調査区の全周に矢板を打設したうえで、遺構面までの掘削を重機で行い、遺構面の精査及び遺構の調査を人力で行った。また調査時には、6 価クロムの溶出試験を実施し、環境対応型の土壌改良剤を用いて重機で埋め戻しをおこなった。

調査区の基本土層は以下の通りで、北・南区ともに共通する。

- I 層：盛土（現代。上面（現況 GL）の標高 63.9 m）
- II 層：暗青灰色粘質土（水田耕土。現代。上面の標高 63.1 m）
- III 層：褐灰色砂質土（旧耕土。中世以降。上面の標高 62.7 m）
- IV 層：黄褐色シルト（上面が遺構面。藤原京期以前の堆積。上面の標高 62.4 m）

3. 検出遺構

検出遺構は、上層遺構と下層遺構の 2 面の遺構面が存在する。

上層遺構は、北・南区とも素掘溝のみである。素掘溝には南北・東西方向があり、幅 0.4 m、深さ 0.2 m を残す。また北区では、最も古い素掘溝は東西方向で、3.9 m 又は 3.5 m 間隔で 4 条を確認した。須恵器や土師器が出土しているが、いずれも混入遺物である。遺構の形状から、奈良時代以降、中世までの遺構と考えられるが、遺構の時期を特定するのは困難である。

下層遺構は、北区で掘立柱建物 1 棟と塀 1 条、溝 4 条、南区で東西溝 1 条を検出した。

北区

掘立柱建物（40SB）は、東西 4 間以上、南北 3.0 m の東西

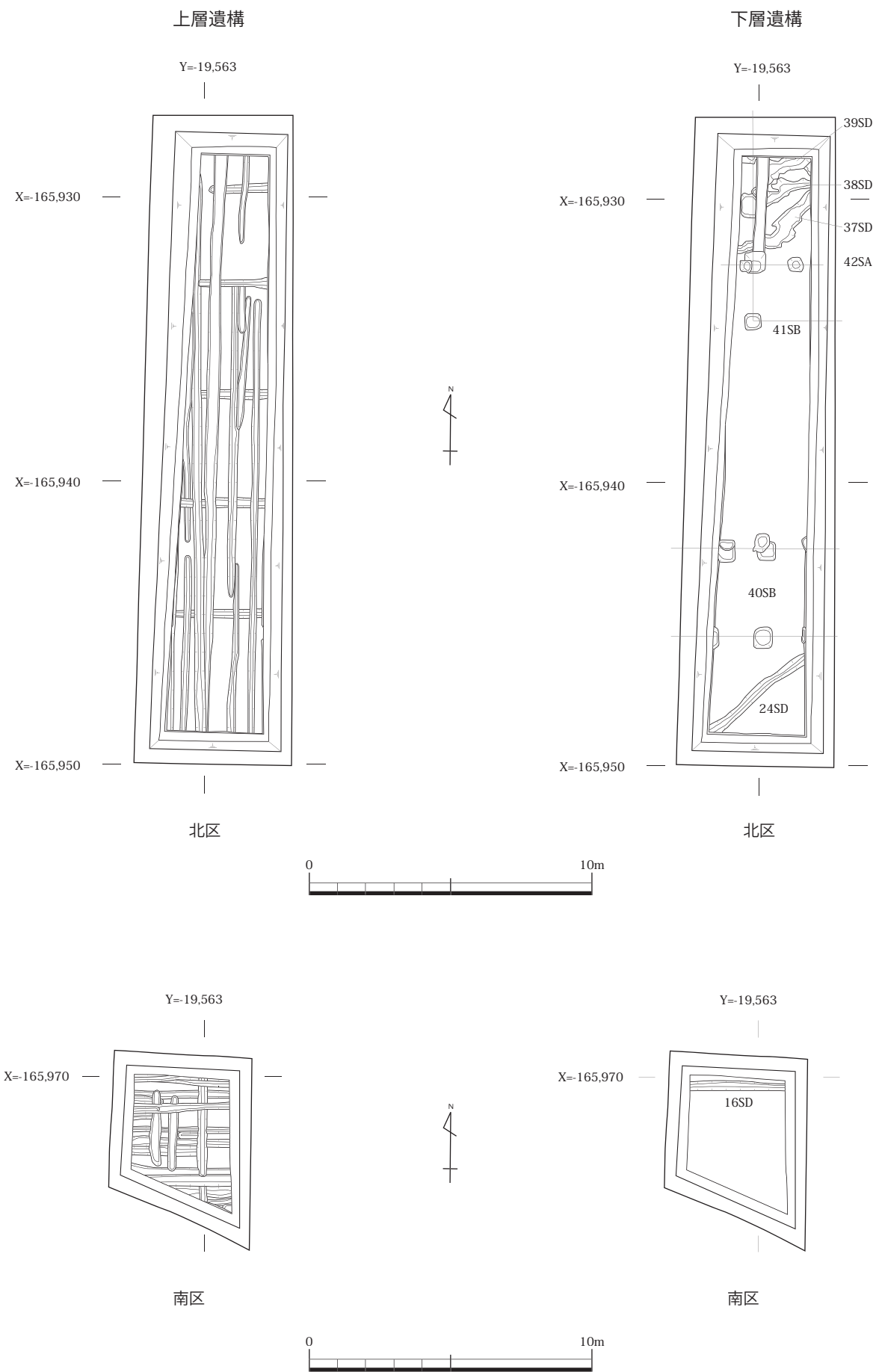


图4 完掘平面图 (S=1/200)

棟と考えられる。柱間は桁行約 1.8 m (6 尺) である。梁間は 2 間の場合、柱間 1.5 m (5 尺) と考えられる。柱穴は 1 辺 0.6 m の隅丸方形で、北辺の柱穴には柱抜き取り穴がある。出土遺物はほとんどなく、遺構の新旧関係もないため、遺構の詳細な年代は不明であるが、主軸方位が正方位に近いことから、藤原京に関連する遺構の可能性が想定される。

掘立柱建物 (41SB) は、東西 2 間以上、南北 4 間以上で、柱間は約 2.1 m (7 尺) 等間で柱穴は一辺 0.8 m の隅丸方形である。出土遺物はほとんどなく、詳細な年代は不明であるが、主軸が正方位に近いことから、藤原京に関連する遺構の可能性が想定される。遺構の新旧関係から、堀 (42SA) よりも古い。

堀 (42SA) は、東西 3 間以上と考えられ、柱間は約 1.8 m (6 尺) である。柱穴は一辺約 0.5 m の隅丸方形である。出土遺物はほとんどないが、柱穴の形状や、主軸方位が正方位に近いことから、藤原京に関連する遺構の可能性が想定される。遺構の新旧関係から、掘立柱建物 (41SB) よりも新しい。

溝 (24SD) は、南西―北東方向にのびる。幅 0.4 m、深さ 0.1 m を残す。出土遺物はほとんどなく、遺構間の新旧関係もないため、遺構の時期は不明である。

溝 (37～39SD) は、いずれも南西―北東方向にのび、蛇行する。幅 0.8 m、深さ 0.1 m を残す。出土遺物がほとんどないが、遺構の新旧関係から掘立柱建物 (41SB) よりも古い。

南区

東西溝 (16SD) は、幅 0.4 m、深さ 0.2 m を残す。出土遺物がほとんどないため、時期は不明だが、検出位置から三条大路北側溝の可能性はある。

4. まとめ

以上、本調査においては、奈良時代以降・藤原京期・藤原京期以前の遺構を検出した。この中で注目される点をあげる。

奈良時代以降の遺構では、素掘溝の中で最も古い遺構は、おおよそ 3.9 m 又は 3.5 m 間隔で規則性を持って掘られている点の特徴といえる。遺構の年代は不明であるが、奈良盆地における条里の施工を考える上で重要な遺構と考えられる。

藤原京期の遺構では、規模は不明であるものの、右京三条八坊が宅地として使用されたことが明らかである。南区で検出した溝 (16SD) の性格については、三条大路北側溝の可能性を指摘したが、今後の検討課題としたい。

藤原京期以前の遺構では、四条古墳群に関する遺物や遺構が存在しなかった点が注目される。調査成果からは、本調査地は四条古墳群の外側にあった可能性が想定できる。

今後、周辺地区における開発の際には、本調査の成果も踏まえた慎重な対応が必要である。

(松井一晃)



写真7 北区全景 上層遺構検出状況 - 北から -



写真8 北区全景 上層遺構完掘状況 -南から-



写真9 北区全景 上層遺構完掘状況 -北から-



写真10 北区 掘立柱建物(40SB)検出状況 -西から-



写真11 北区 溝(37~39SD) 検出状況 -北から-



写真12 北区 掘立柱建物(40SB) 完掘状況 -西から-



写真 13 北区全景 下層遺構完掘状況 - 南から -



写真 14 北区全景 下層遺構完掘状況 - 北から -



写真15 北区 溝 (37～39SD) 完掘状況 -北から-



写真16 南区全景 上層遺構検出状況 -東から-



写真17 南区全景 上層遺構完掘状況 - 東から -



写真18 南区 溝(16SD) 検出状況 - 東から -



写真19 南区 溝(16SD) 完掘状況 -南から-



写真20 南区 西壁土層断面 -東から-



写真 21 北区 掘立柱建物（40SB）北辺西端の柱穴土層断面 - 北から -



写真 22 北区 掘立柱建物（40SB）北辺中央の柱穴土層断面 - 北から -

藤原宮跡

調査地 醍醐町 236 番 1 の一部

調査期間 平成 25 年 7 月 30 日～平成 25 年 8 月 8 日

調査面積 60.9 m²

調査原因 農業用倉庫建設

1. はじめに

今回の調査は農業用倉庫の建設に伴う発掘調査である。調査地は醍醐池から北北西に約 250 m の地点、醍醐町集落の東辺に接する水田地である。

調査地は藤原宮北辺の外周帯上に位置する。藤原宮北面中門から西北西に約 110 m の地点である。東西の位置は北面西門と中門の間、わずかに中門寄りである。

調査地の南隣の駐車場建設時に奈良文化財研究所が調査を行っている（藤原宮 第 71-7 次調査）。今回の調査地と同じく外周帯上にあたり、検出した遺構は耕作溝および時期不明の柱穴 2 基である。駐車場の南隣には東西道路が通っており、この道路から南側が史跡地に指定されている。

2. 調査の概要

調査区の規模は東西 10.5 m、南北 5.8 m、面積 60.9 m²で

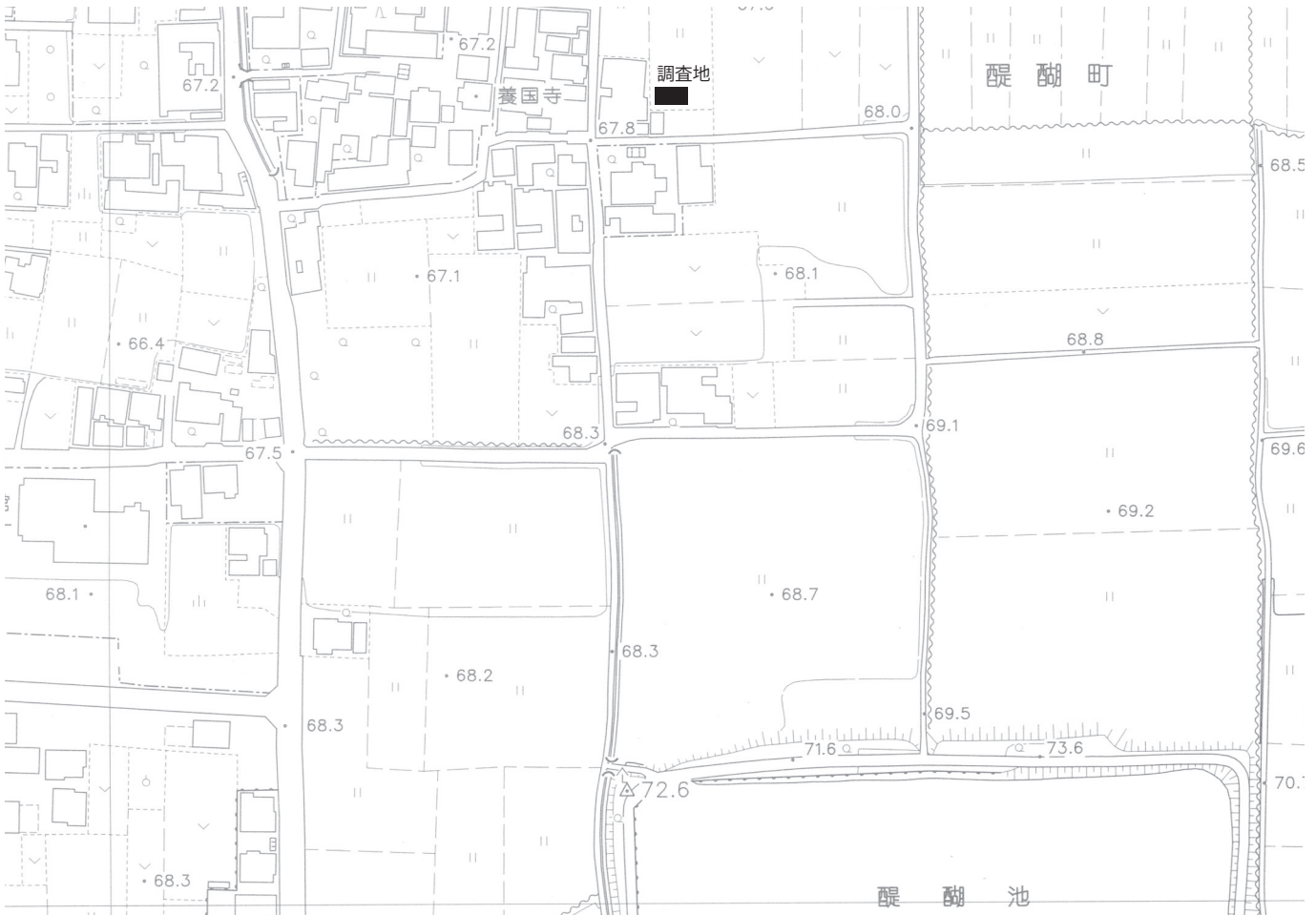


図5 発掘調査地位置図 (S=1/2,500)

ある。調査は遺構面までの掘削と埋め戻しを重機で行い、他の作業を人力で行った。

調査区の基本的な層序は以下のとおりである。

I 層：耕作土（厚さ約 0.1 m。上面の標高 67.7 m）

II 層：浅黄色土（中世以降の耕作土。厚さ約 0.1 m）

III 層：褐灰色粘質土（地山。厚さ約 0.7 m。上面の標高 67.45～67.50 m。東側が高い）

現地表面下約 0.2 m の III 層（地山）上面で遺構を検出している。

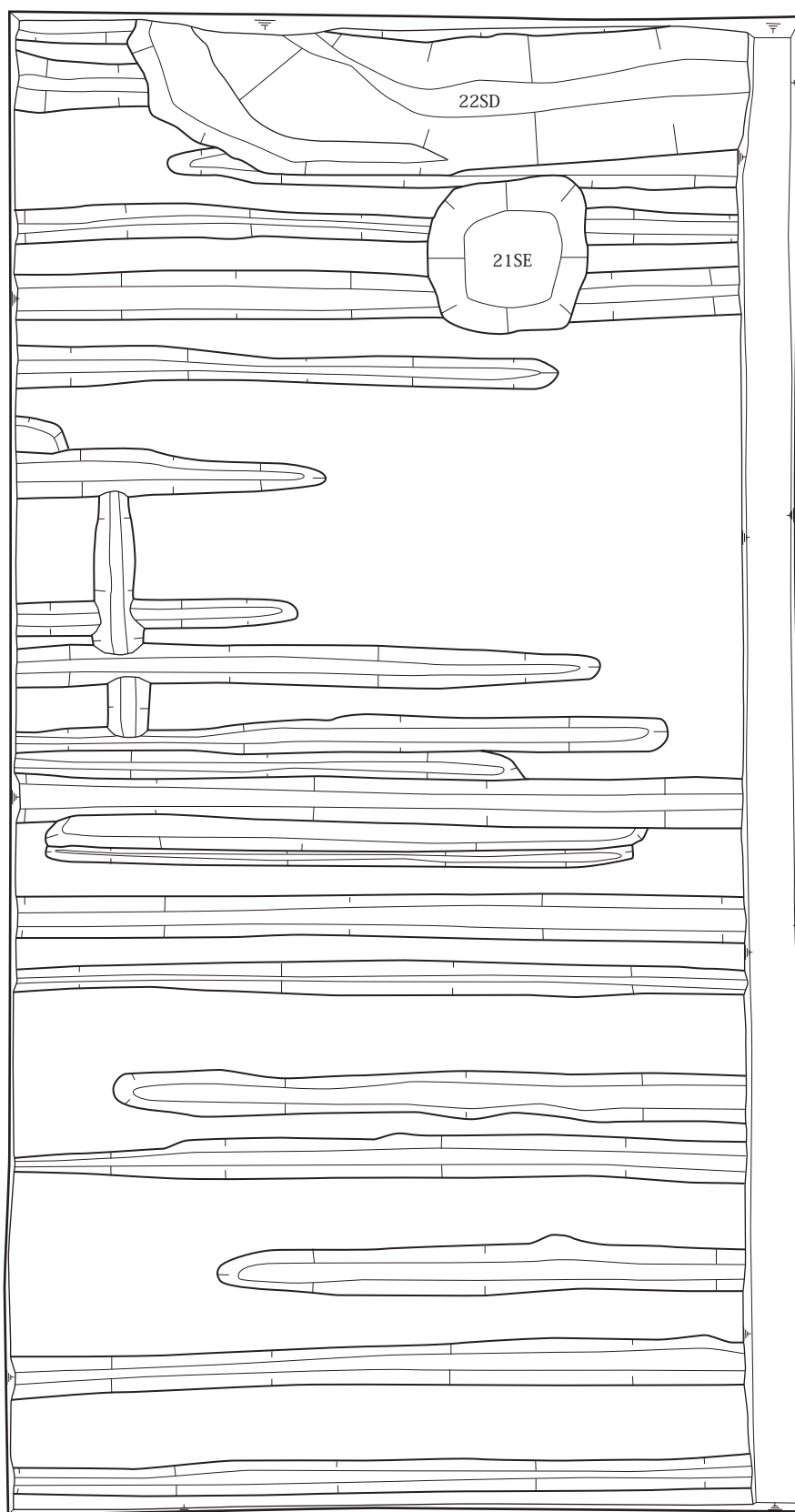
検出した遺構は中世以降の耕作溝、中世の井戸 1 基(21SE)、古墳時代後期の溝 1 条 (22SD) である。

耕作溝は調査区全域に存在し、南北方向 22 条と東西方向 1 条がある。東西方向の溝は南北方向の溝よりも古い。耕作溝の規模は幅最大約 0.4 m、深さ最大約 0.2 m である。

井戸 (21SE) は調査区北西に位置する素掘りの井戸で、耕作溝よりも古い遺構である。平面形は一辺約 1.1 m の隅丸方形、深さは約 1.5 m である。人為的に埋め戻されている。瓦器、白磁、土師器、須恵器、瓦などが出土している（図 7-1～10）。出土遺物から遺構の時期は 12 世紀であると考えられる。1・2 は瓦器皿、3～6 は瓦器碗である。7・8 は白磁碗であり、7 のほうが器壁表面などが精良な優品である。9 は羽釜の口縁部で、井戸の底面付近から倒置された状態で出土している（写真 27）。出土状況から、井戸枠のように扱われていた可能性が

X=165,723

X=165,719



— Y=17,810

— Y=17,805



图6 遺構平面図 (S=1/50)

ある。1～8も井戸底面付近からの出土遺物である。10は遺構上層の埋め戻し土から出土した藤原宮式の軒平瓦である。上層からは拳大の礫が複数出土しており、これらとともに周囲に存在していたものが捨て込まれたのだと考えられる。

溝(22SD)は調査区西端に位置する溝で、南側で西に折れ曲がる。規模は幅約1.0m、深さ約0.3mを測る。埋土は灰色のシルト～細砂である。古墳時代中期から後期の土師器、須恵器が出土している。

3. まとめ

今回の調査では中世および古墳時代の遺構の存在を確認した。中世については耕作溝以外では井戸1基、古墳時代については溝1条を確認したのみであるが、いずれも遺物が一定量出土しており、周辺に同時期の遺構が存在する可能性は高いと考えられる。

現地表面から遺構面までの深度が浅いため後世の削平を考慮する必要もあるが、藤原宮については遺構が存在せず、少量の遺物が出土したのみである。
(石坂泰士)

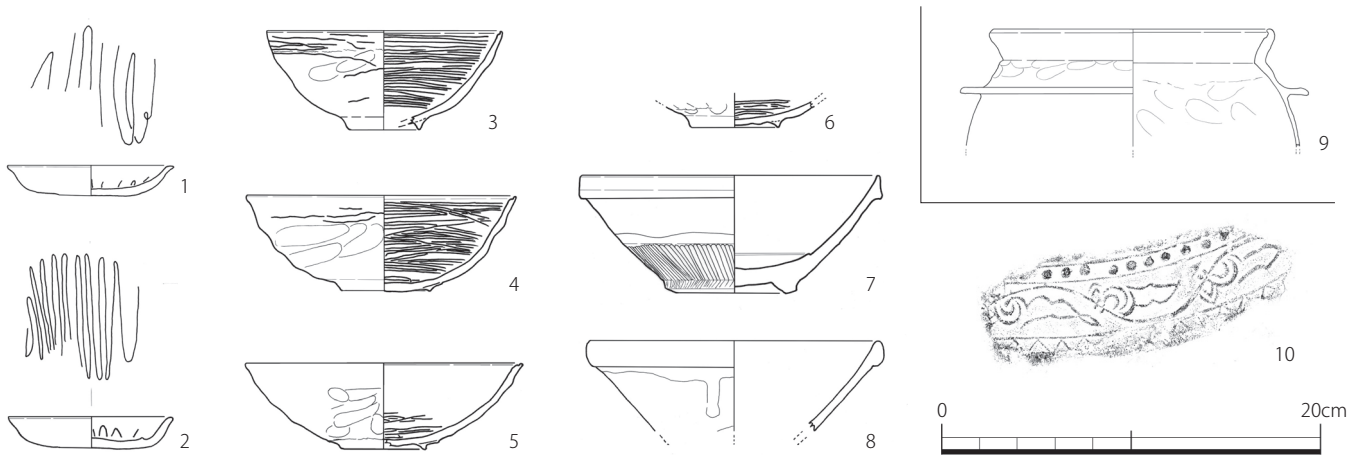


図7 井戸(21SE)出土遺物(S=1/4。9のみS=1/8)



写真23 調査区全景 耕作溝検出状況 -南東から-



写真 24 調査区全景 耕作溝完掘状況 -北から-



写真 25 調査区西半 溝・井戸検出状況 -東から-



写真26 井戸(21SE)土層断面 -南から-



写真27 井戸(21SE)底面 遺物出土状況 -南から-



写真28 調査区全景 遺構検出状況 - 西から -



写真29 井戸(21SE)軒平瓦出土状況 - 北から -



写真30 溝(22SD)土層断面 - 南から -



写真31 溝(22SD)・井戸(21SE) - 南東から -

大藤原京左京北一条三坊、横大路

調査地 榎原市石原町地内

調査機関 平成 25 年 11 月 5 日～平成 25 年 12 月 10 日

調査面積 60.6 m²

調査原因 市道法花寺町常盤町線拡幅事業

1. はじめに

調査地は、近鉄大阪線耳成駅から南に約 100 mの地点から、米川までの約 120m の区間にあたり、現況は道路用地となっている。

調査地は、藤原京の中でも大藤原京と呼ばれる範囲に含まれているだけでなく、調査地内を古道である横大路が横断している。また、調査地の隣接地において民間事業に係る工事立会の際には、横大路北側溝の可能性のある遺構が検出された。したがって本調査においては、藤原京に関連する遺構の他、横大路に関連する遺構の検出が想定された。

2. 調査の概要

調査区は、道路予定地のうち、住宅や店舗の入口を避けて南北に 4ヶ所設定した。そして北から南に 1区～4区とした。本調査時には、多量の地下水の湧出により調査区の崩落の危険

性があった。そこで検出遺構は、検出面が浅く安全が確保できる 4区を除き、遺構の検出のみに止めることとした。また調査時に 6 価クロムの溶出試験を実施し、環境対応型の土壌改良剤を用いて重機で埋め戻しをおこなった。

調査区の基本土層は以下の通りである。

1 区

I 層：盛土（現代。上面（現況 GL）の標高 66.0 m）

II 層：暗青灰色砂質土（水田耕土。現代。上面の標高 65.4 m）

III 層：にぶい黄褐色砂質土及び暗灰黄色シルト（旧耕土。中世以降。上面の標高 64.9 m）

IV 層：黒褐色砂質土（上面が遺構面。上面の標高 64.4 m）

2 区

I 層：盛土（現代。上面（現況 GL）の標高 66.0 m）

II 層：暗青灰色砂質土（水田耕土。現代。上面の標高 65.4 m）

III 層：灰色砂質土及び灰黄褐色砂質土（旧耕土。中世以降。上面の標高 64.7 m）

IV 層：暗灰色砂（上面が遺構面。上面の標高 64.5 m）

3 区

I 層：盛土（現代。上面（現況 GL）の標高 65.8 m）

II 層：暗青灰色砂質土（水田耕土。現代。上面の標高 65.4 m）

III 層：灰褐色砂質土及び褐灰色シルト（旧耕土。中世以降。上面の標高 65.2 m）

IV 層：暗灰色粘土（遺構埋土。上面の標高 64.5 m）

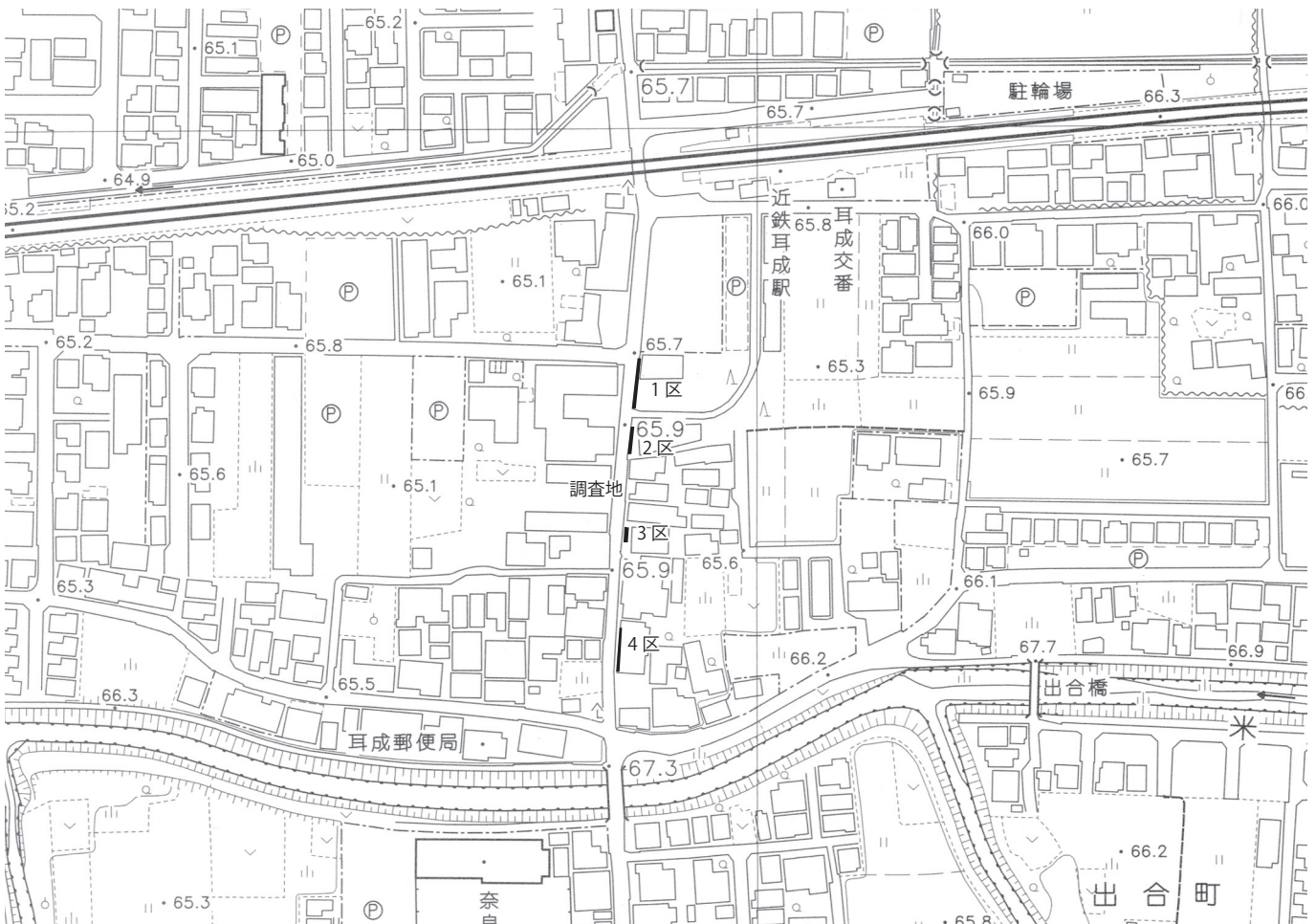


図8 発掘調査地位置図 (S=1/2,500)

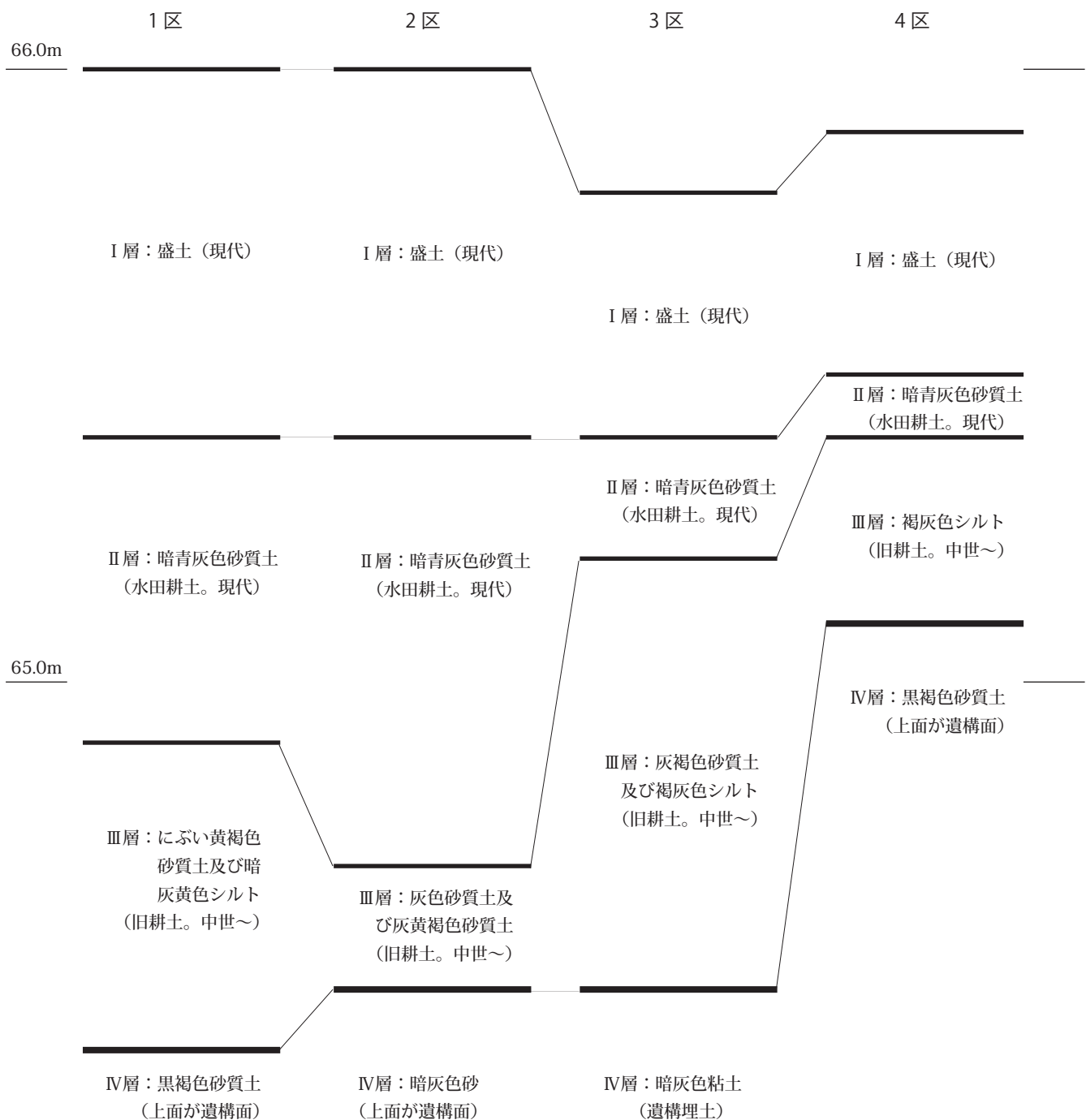


図9 土層模式図 (S=1/10)

4区

- I層：盛土（現代。上面（現況GL）の標高 65.9 m）
- II層：暗青灰色砂質土（水田耕土。現代。上面の標高 65.5 m）
- III層：褐灰色シルト（旧耕土。中世以降。上面の標高 65.4 m）
- IV層：黒褐色砂質土（上面が遺構面。上面の標高 65.1 m）

本調査は、全ての調査区でIV層上面まで重機掘削し、IV層上面にて遺構の調査を行った。

3. 検出遺構

1区

東西方向の溝を1条検出した。

溝（01SD）は幅 1.8 mで、埋土は灰色細砂である。出土遺物がないため、遺構の時期は不明である。

2区

東西方向の溝を1条検出した。

溝（02SD）は幅 2.2 m以上で、埋土は暗灰色粘土である。出土遺物から中世の遺構と考えられる。

3区

調査区の全面で遺構埋土を検出した。遺構の規模は不明である。出土遺物から中世に埋没した遺構と考えられる。調査区的位置から、横大路北側溝の可能性があり、この場合は東西方向の溝と考えられる。

4区

素掘溝、溝、土坑、ピットを検出した。

素掘溝は東西方向のものが2条、南北方向のものが2条である。幅は最大で 0.4 mである。東西方向の素掘溝と南北方向

の素掘溝との間に新旧関係はない。

溝 (03SD) は東西方向で、幅 0.8 m 以上である。出土遺物が殆どないため、時期不明である。

溝 (04SD) は東西方向で、幅 0.7 m である。出土遺物が殆どないため、時期不明である。

ピット (05 ~ 09SP) は、平面形がいずれも円形で直径は 0.3 ~ 0.6 m である。底面に礎板石が残されているピット (06・09SP) もある。

土坑(10SK)は平面形が不整形で、東西 1.5 m 以上、南北 1.6 m 以上である。出土遺物が殆どないため、時期不明である。

4. まとめ

以上、本調査においては、全ての調査区で遺構を検出した。しかし、出土遺物がきわめて少なく、遺構の時期が判明したのは、3 区の溝と考えられる遺構のみである。その他の遺構の時期は、埋土から中世の遺構の可能性はあるが、確定できない。

横大路に関連する遺構は、本調査では確認できなかったが、今後、周辺地域の調査で検出される可能性がある。したがって周辺地域における開発の際には慎重な対応が必要である。

(松井一晃)

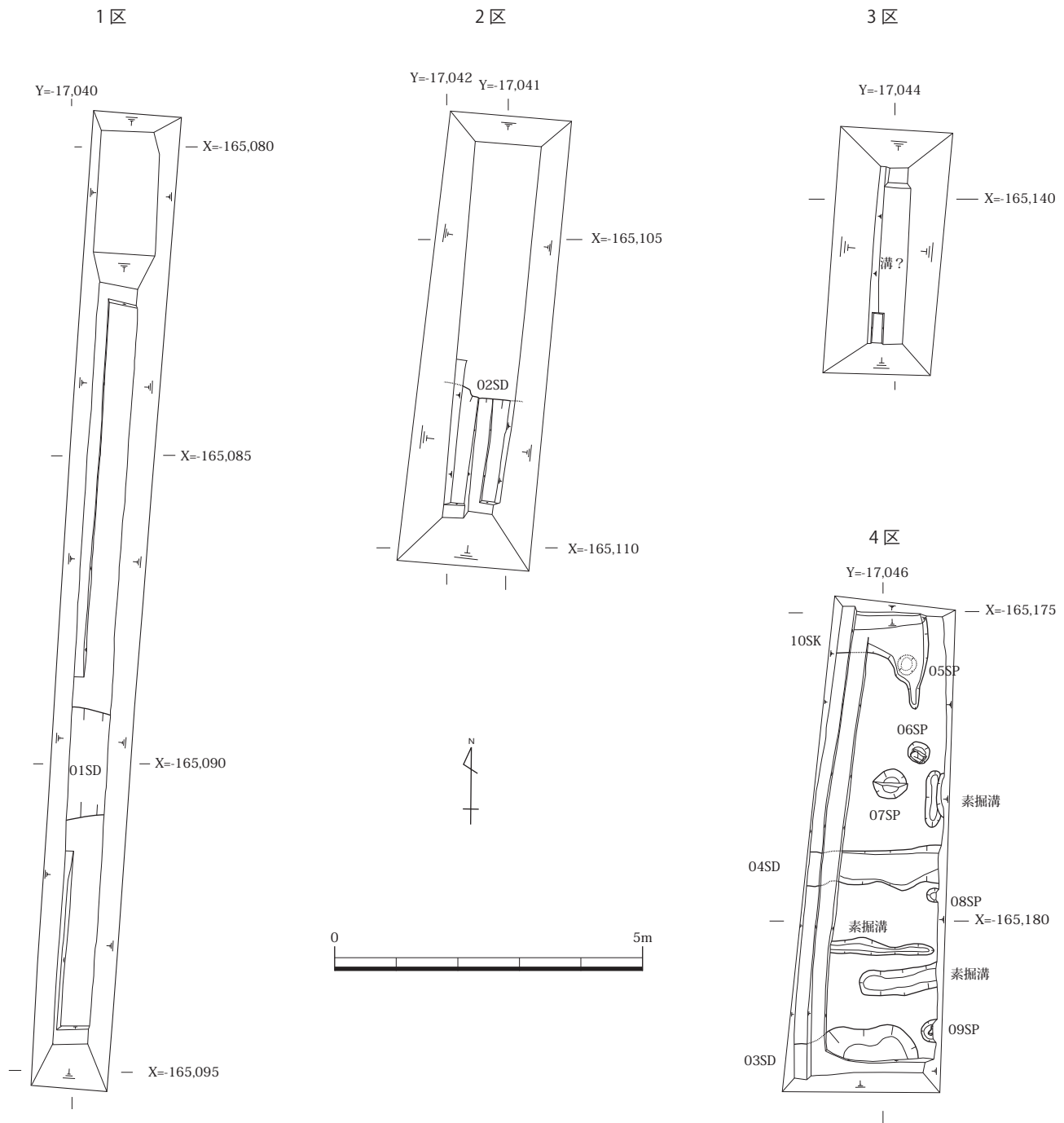


図 10 平面図 (S= 1/100)



写真32 1区全景 完掘状況 -南から-



写真33 2区全景 完掘状況 -北から-



写真34 3区全景 遺構検出状況 -北から-



写真35 4区全景 遺構検出状況 -南から-



写真36 4区全景 遺構検出状況 -北から-



写真37 4区全景 完掘状況 -南から-



写真38 4区全景 完掘状況 -北から-



写真39 4区西壁 土層断面 -東から-



写真40 4区 06SP 礎板石検出状況 -南から-



写真41 4区 09SP 土層断面 -西から-

新堂町試掘確認調査

調査地	榑原市新堂町 189 番 1 外
調査機関	平成 25 年 12 月 16 日～平成 26 年 2 月 28 日
調査面積	1,488 m ²
調査原因	遺跡有無確認踏査

1. はじめに

本調査は、新堂町において提出された遺跡有無確認踏査に代わる試掘調査である。調査地は、住吉川と主要地方榑原高取線にはさまれた地区のうち、イオンモール榑原の南西に広がる水田である。本来ならば、この水田において踏査を実施するものであるが、水田耕作が行われているため、地表面に大量の藁がおかれており、また、遺跡の痕跡も非常に不明瞭で遺跡の有無の判断は困難と判断されたため、遺跡有無確認踏査にかわり試掘確認調査を実施することとなった。

調査地のほとんどは遺跡外である。しかし、調査地東端が新堂遺跡、東北端が曲川遺跡に含まれるため、試掘調査では新堂遺跡及び曲川遺跡に関わる遺構の検出が想定された。

2. 調査の概要

調査区は、調査対象の水田において、東西方向に長い調査区を 9 箇所設定し、北から南へ 1～9 区と呼称することとした。

調査はまず、重機によって表土を掘削した後、遺構面の上面において遺構面精査を行い、遺構検出を実施した。調査地に隣接する曲川遺跡や新堂遺跡では、古墳時代の遺構面に加えて縄文時代の遺構面が検出されていたため、本調査においても下層遺構が存在する可能性が想定された。そこでそれぞれの調査区の半分を掘り下げ、下層遺構の有無を確認した。

なお、調査時には多量の地下水の湧出があり、重機掘削と遺構検出を並行して実施することが不可能であった。そこでまず全調査区の重機掘削を行い、壁面及び遺構面の養生をした後、調査を終了した調査区から埋め戻しをしながら調査を進めることとした。また調査終了後は、重機を使用して調査区を埋め戻した。

調査区の基本土層は調査区ごとに若干の相違が認められるが、大きくは以下の通りとなる。なお、各調査区で付した土層番号のうち同一番号の層は、その性質が同じであることを示している。

1 区

- I 層：暗青灰色砂質土（水田耕土。現代。上面標高 60.4 m）
- II 層：にぶい黄褐色砂質土及び暗灰黄色シルト（旧耕土。中世以降。上面の標高 60.2 m）
- IV 層：黒褐色砂質土（自然堆積。時期不明。上面が上層遺構検

出面。上面の標高 59.5 m）

- V 層：にぶい黄褐色砂質土（自然堆積。時期不明。上面が下層遺構検出面。遺構なし。上面の標高 59.6 m）

2・3 区

- I 層：黒褐色砂質土（水田耕土。現代。上面の標高 61.1 m）
- II 層：にぶい黄褐色砂質土及び灰褐色砂質土（旧耕土。中世以降。上面の標高 60.8 m）
- III 層：灰色砂（上面が上層遺構検出面。古墳時代中期の土器を含む。流路の埋土。上面の標高 60.5 m）

4 区

- I 層：黒褐色砂質土（水田耕土。現代。上面の標高 61.4 m）
- II 層：にぶい黄褐色砂質土（旧耕土。中世以降。上面の標高 61.2 m）
- III 層：灰白色砂（上面が上層遺構検出面。古墳時代中期の土器を含む。流路の埋土。上面の標高 60.8 m。調査区の東半に分布）
- IV 層：黒褐色砂質土（自然堆積。時期不明。1 区 IV 層と同一層。上面の標高 60.8 m。調査区の西半に分布）

- V 層：灰色シルト（流路の埋土。上面が下層遺構検出面だが遺構なし。上面の標高 60.5 m）

5 区

- I 層：暗青灰色砂質土（水田耕土。現代。上面の標高 61.6 m）
- II 層：にぶい黄褐色砂質土（旧耕土。中世以降。上面の標高 61.4 m）
- IV 層：黒褐色砂質土（自然堆積。時期不明。上面が上層遺構検出面。上面の標高 60.6 m）
- V 層：黒褐色砂質土（自然堆積。上面が下層遺構検出面。明確な遺構なし。上面の標高 60.3 m）

6 区

- I 層：暗青灰色砂質土（水田耕土。現代。上面の標高 61.7 m）
- II 層：にぶい黄褐色砂質土（旧耕土。中世以降。上面の標高 61.5 m）
- IV 層：黒褐色砂質土（自然堆積。時期不明。上面が上層遺構検出面。上面の標高 61.0 m）
- V 層：黒褐色砂質土・灰色粘土（自然堆積。上面が下層遺構検出面。流路以外に明確な遺構なし。上面の標高 60.7 m）

7 区

- I 層：暗青灰色砂質土（水田耕土。現代。上面の標高 61.9 m）
- II 層：灰黄褐色砂質土（旧耕土。中世以降。上面の標高 61.7 m）
- IV 層：黒褐色砂質土（自然堆積。時期不明。上面が上層遺構検出面。上面の標高 61.0 m）
- V 層：黒褐色シルト（自然堆積。上面が下層遺構検出面だが遺構なし。上面の標高 60.7 m）
- VI 層：暗灰色粘土（上面が最下層遺構検出面。遺構なし。上面の標高 60.4 m）



図11 調査地・調査区位置図 (S=1/3,000)

8区

- I層：暗灰色砂質土（水田耕土。現代。上面の標高 61.9 m）
- II層：にぶい黄褐色砂質土（旧耕土。中世以降。上面の標高 61.7 m）
- IV層：暗褐色砂質土（自然堆積。時期不明。上面が上層遺構検出面。上面の標高 60.9 m）
- V層：暗褐色粘質土（自然堆積。上面が下層遺構検出面だが遺構なし。上面の標高 60.7 m）

9区

- I層：暗灰色砂質土（水田耕土。現代。上面の標高 62.3 m）
- II層：にぶい黄色砂質土（旧耕土。中世以降。上面の標高 62.1 m）
- IV層：黒色砂質土（自然堆積。時期不明。上面が上層遺構検出面。上面の標高 61.5 m）
- V層：黒褐色砂質土（自然堆積。上面が下層遺構検出面。上面の標高 61.3 m）

本調査は、III層もしくはIV層上面にて上層遺構の検出、V層上面にて下層遺構の検出を行った。また、7区ではVI層上面にて最下層遺構の検出を行った。

3. 検出遺構

全ての調査区で素掘溝を検出した。ここでは、素掘溝以外の検出遺構について述べる。

1区

上層遺構

南西—北東方向の溝を1条検出した。幅0.8mで、埋土は灰色砂である。出土遺物がないため、遺構の時期は不明である。

下層遺構

検出遺構はない。

2区

上層遺構

調査区の全面が流路内である。この流路は、東南東—西北西に流下すると考えられるが、規模は不明である。3区及び4区東半で検出した流路と同一の遺構である。出土遺物から、古墳時代中期に埋没した遺構と考えられる。

下層遺構

湧水のため調査をできなかったが、流路によって遺構面を破壊されている可能性が高い。

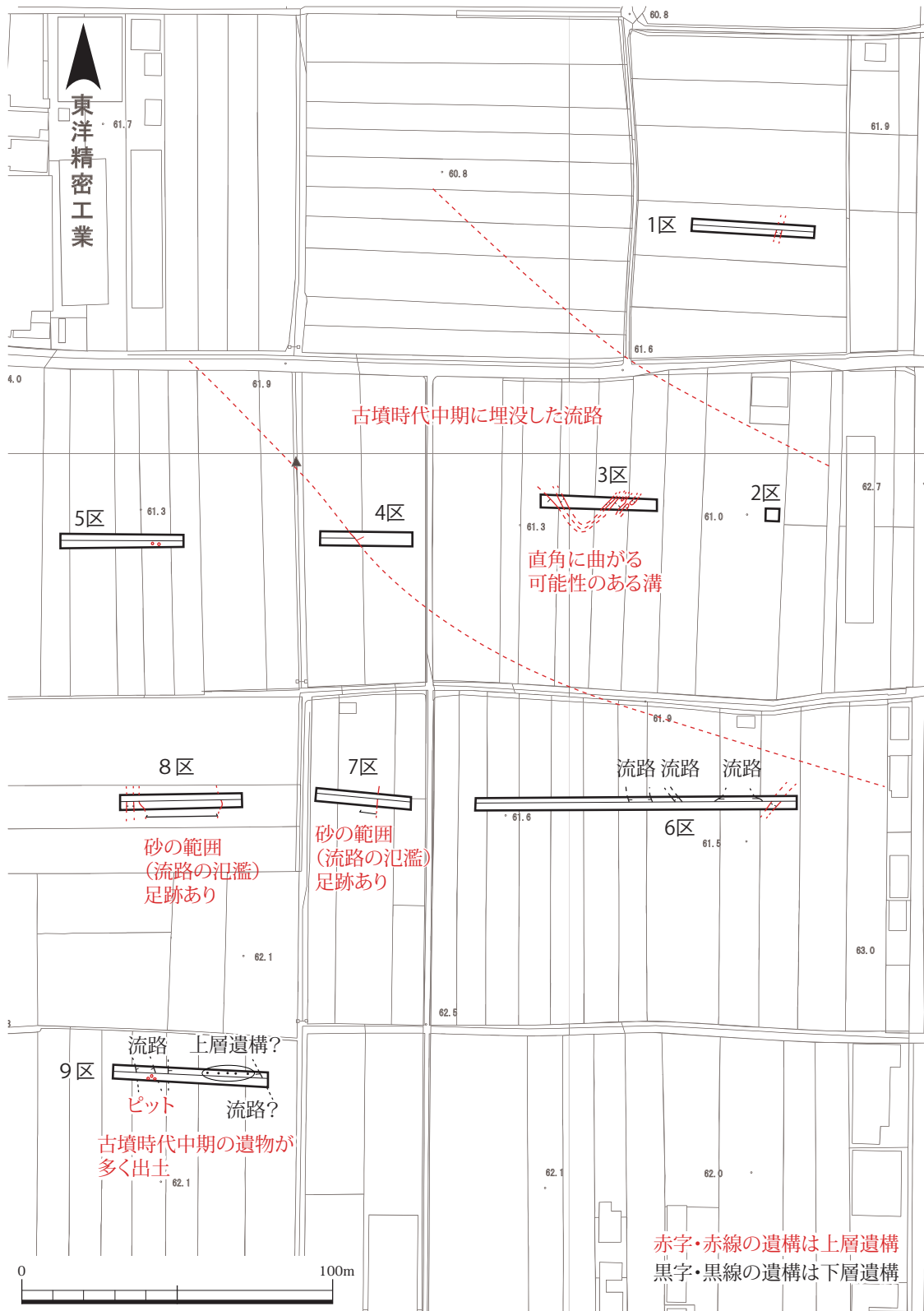


図12 試掘調査区と平面図 (S=1/2,000)

3区

上層遺構

調査区中央にて、南西-北東方向の溝を3条、調査区西端にて南東-北西方向の溝を2条検出した。幅0.8~2.0mである。これらの方位を異にする溝は、主軸方向のずれがほぼ直角であり、また埋土も灰色砂質土で類似していることから、本来は同一の遺構と考えられる。この場合、これらの溝は方形に掘られた溝の一部である可能性が想定される。新旧関係から、古墳時代中期以降、中世以前の遺構と考えられる。

下層遺構

2区と同様、湧水のため調査をできなかったが、流路によって遺構面を破壊されている可能性が高い。

4区

上層遺構

調査区中央にて、2・3区で検出した流路の左岸を検出した。なお、東岸は2区よりも東側にあると考えられる。

下層遺構

調査区東半は2・3区と同様、湧水のため調査をできなかった

たが、流路によって遺構面を破壊されている可能性が高い。調査区西半には流路があるが、規模や流下方向は不明である。また、出土遺物もないため、時期も不明である。

5区

上層遺構

ピットを3基検出した。うち2基は平面形が円形を呈し、直径は0.2～1.0 mである。出土遺物はないが、遺構の新旧関係から、中世及び中世以前の遺構と考えられる。

下層遺構

検出遺構はない。

6区

上層遺構

調査区東端にて南西―北東方向の溝を1条検出した。幅2.3 mである。出土遺物に土師器片があるが、細片のため時期は不明である。

下層遺構

流路を3条検出した。出土遺物がないため、時期は不明である。下層遺構の掘り込み面（V層）から縄文土器片が1片出土した。

7区

上層遺構

人間の足跡を検出した。時期は不明である。

下層遺構

検出遺構はない。

8区

上層遺構

人間の足跡を検出した。時期は不明である。7区で検出した足跡と同時期と考えられる。調査区西端で南北方向の溝を検出した。幅3.2 mである。8区の真北にある5区及び、8区の真南にある9区ではこの溝の延長は検出していない。

下層遺構

検出遺構はない。

9区

上層遺構

土坑及びピットを調査区の全面で検出した。9区では、遺構検出時に出土した遺物量が他の調査区と比較して圧倒的に多く、遺構外からも遺物が出土した。出土遺物から、遺構の時期は古墳時代中期と考えられる。

下層遺構

ピット及び流路を検出した。しかし、その形状や埋土から判断すると、ピットの中には上層遺構のものも含まれる可能性があることは否定できない。流路は2条検出した。出土遺物はない。

4. まとめ

本調査においては、ほぼ全ての調査区で遺構を検出した。遺構面の中心となるのは上層遺構である。

上層遺構には、素掘溝とそれ以外の遺構がある。素掘溝は全ての調査区で検出されたことから、中世の段階では、広く耕作が行われていたことがわかる。素掘溝以外の上層遺構の分布には粗密があり、3区及び、8・9区周辺は遺構密度が高い地区といえる。特に3区で検出した直角に曲がると考えられる溝は、居宅の環濠や古墳の周溝である可能性がある。また、8・9区は、他の調査区と比較して遺物が集中して出土しているにも関わらず、当該期の遺構は検出されていない。このことから、8・9区の周辺には、古墳時代中期の集落が存在する可能性を指摘できる。この想定については、新堂遺跡の既往調査でも、古墳時代中期の遺構が検出されている事実と矛盾しない。しかし上述のように遺構が全くないことから、8・9区を中心とする地点は、古墳時代中期の集落の縁辺部であると考えられる。また、2～4区にかけて検出した流路は、出土遺物から古墳時代中期後半に埋没したと考えられる。この流路は非常に幅が広く、古墳時代の生産活動をするうえで重要な水源となっていたと考えられる。なお調査地周辺では、弥生時代から鎌倉時代までの流路が確認されている。本調査で検出した流路もその一部と考えられる。

下層遺構については、9区を除いては流路を検出したにとどまった。古墳時代以前には、人間活動が流路によって制限されていた状況を読み取ることができる。

今回の調査成果は、これまで遺跡外であった地点で遺構を確認したことで、これまでよりも新堂遺跡の範囲が大きく拡大すると考えられる成果を得た点で重要な調査と言える。

(松井一晃)



写真 42 調査地全景 - 北東から -



写真 43 調査地から新堂遺跡を望む - 北西から -



写真 44 1区全景 遺構検出状況 - 東から -



写真45 1区全景 遺構検出状況 -西から-



写真 46 1区 溝検出状況 -南から-



写真 47 2区全景 遺構検出状況 -西から-



写真 48 3区全景 遺構検出状況 - 西から -



写真 49 3区全景 遺構検出状況 - 東から -



写真50 3区 溝(南東辺) 検出状況 - 南から -



写真51 3区 流路内須恵器出土状況 - 東から -



写真 52 4区全景 遺構検出状況 -東から-



写真 53 4区全景 遺構検出状況 -西から-



写真 54 4区 流路西岸検出状況 -南から-



写真 55 4区 北壁土層断面 -南から-



写真 56 5区全景 遺構検出状況 - 東から -



写真 57 6区全景 遺構検出状況 - 東から -



写真 58 6区西半 遺構検出状況 - 東から -



写真 59 6区東端 遺構検出状況 - 東から -



写真 60 6区東端 北壁土層断面 - 南から -



写真61 7区全景 遺構検出状況 - 東から -



写真62 8区全景 遺構検出状況 - 西から -



写真63 8区西端 遺構検出状況 - 西から -



写真64 8区西端 北壁土層断面 - 南から -



写真 65 9区全景 遺構検出状況 - 東から -



写真 66 9区全景 遺構検出状況 - 西から -



写真 67 9区東端 北壁土層断面 - 南から -



写真 68 9区 北壁土層断面 - 南東から -

東池尻・池之内遺跡、大藤原京左京五条八坊

調査地 東池尻町地内

調査期間 平成 26 年 2 月 3 日～平成 26 年 3 月 19 日

調査面積 310 m²

調査原因 範囲確認調査

1. はじめに

調査地は香具山から北東に約 1.1 km の地点、戒外川西岸に位置する。榑原市の東端部にあたり、戒外川から東側は桜井市域である。

調査地の地形は、桜井市池之内から北西に派生する丘陵の先端部にあたる。さらに周囲に目を向けると、戒外川西岸から西方の御厨子観音が位置する丘陵にかけての範囲には、長さ約 300 m、幅 20～55 m、高さ 2～3 m の土手状の「高まり」が帯状に延びている。「高まり」は南側の谷部を塞ぐような形状である。この一帯を、かつて和田萃氏は「磐余池」とであると推定された。

榑原市教育委員会では、平成 21～24 年度に市道「飛驒ふるさと公園線」の拡幅工事に伴う事前調査を実施した。平成 23 年度の調査によって、この「高まり」部分が人工的に造られた堤であることが明らかとなった。堤上には大壁建物や掘立柱建物などの構造物も存在する。堤の構築時期は 6 世紀後半であると考えられ、堤上には 6 世紀後半から藤原京期の遺構

が存在する。当初の工事計画では、この堤上を道路が通る予定であったが、遺跡の重要性を鑑み、道路位置を変更して遺跡の保護を図った。道路は平成 24 年度に当初予定より東側に築造した（今回の調査地のすぐ東側を通っている）。道路は大部分の範囲が明治に築かれた「東池」を埋め立てた地点を通っており、遺構は存在しない。一部、道路が堤上を横断せざるをえない範囲については、平成 24 年度に事前調査を実施した。

今回の調査は、範囲確認を目的とした調査である。今回の調査範囲は平成 23 年度と平成 24 年度の調査区の間地点に位置する。堤上面の東端付近と目される地点である。

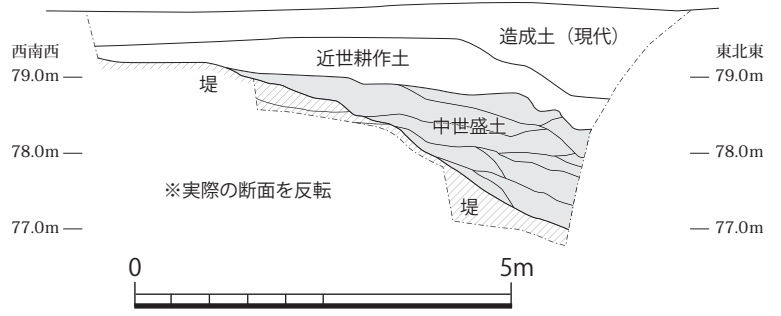
平成 25 年度には、これまでの調査成果をもとに調査地周辺を「東池尻・池之内遺跡」という名称で遺跡地図に登録を行った（No. 14B-0264）。登録内容は古墳時代後期・飛鳥時代・奈良時代の生産遺跡である。遺跡の範囲は榑原市東池尻町・南浦町と桜井市池之内にまたがっており、桜井市教育委員会と協議の上で範囲と内容を決定した。

2. 調査の概要

調査区は平成 23 年度調査 1 区の南半東隣に接する位置に設定している。今回の調査区の西端は平成 23 年度調査 1 区と幅約 0.4 m 分、重複している。調査地点は東池の南西側に存在した土手部分にあたる。かつては調査地点のすぐ北東隣に東池が存在していたが、近年、池の埋め立てが進んでおり、現在の東池はやや東に離れた地点に存在している。これまでの調査成果や周辺の地形から、今回の調査地点は堤上面の東半部分にあると予想された。



図13 発掘調査地位置図 (S=1/2,500)



調査区北半横断面図 (S=1/100)

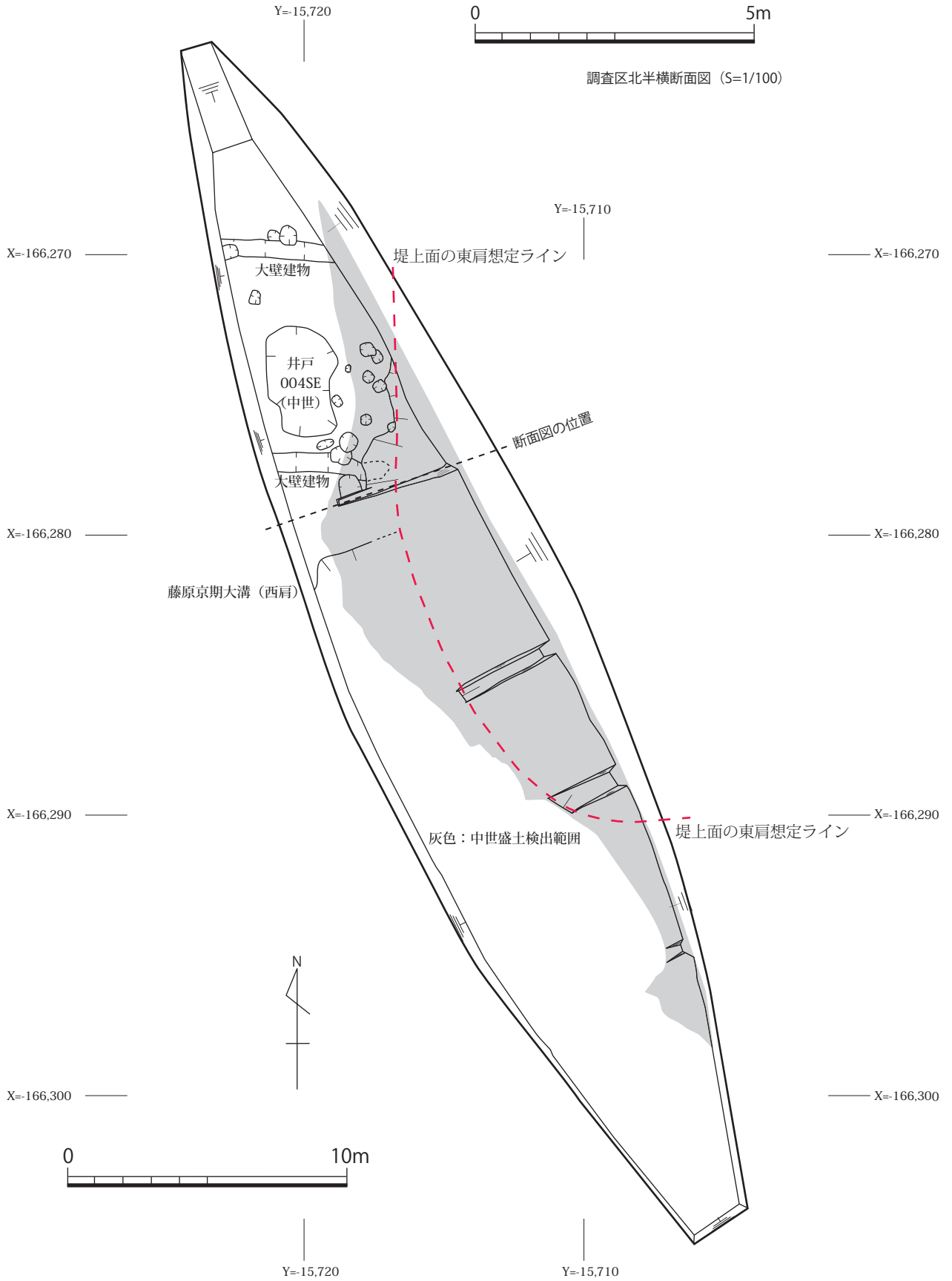


図14 調査区平面図 (S=1/200) ・断面図 (S=1/100)

検出した遺構面は、中世の盛土層上面および堤上面である。現地表面－0.4～1.7 mの深度が遺構面である。遺構面高は全体に西から東に向かって低くなり、特に調査区中央付近では東端が大きく落ち込む。これは明治時代に築かれた東池の端にあたる。近現代の造成土と遺構面との間には、近世を中心とする時期の耕作層が厚さ約0.2～0.5 m堆積する。調査区中央から南側にかけての遺構面上には耕作溝が存在する。溝はいずれも地形に合せた北西－南東方向に掘られている。調査区南側には幅約8.5 mの範囲で、面的に周囲よりも約0.4 m深く耕作が行われている地点が存在する。

調査区の東半では中世の盛土を検出している。盛土は、後述する堤の東肩から東斜面の上に厚く盛られている。本来は堤の上面にも薄く盛土が施されているが、検出の段階でほぼ除去してしまっている。盛土の高さは、もっとも厚くなる東端で最大約2.0 mを測る。にぶい黄・黄橙色砂質土～粘質土が厚さ約0.2～0.5 m単位で盛られている。一連の作業として盛られたものと考えられる。堤斜面上に盛土が直接盛られており、盛土を施す前に堤の表面を若干削っていると考えられる。盛土からは12世紀後半頃の瓦器や土師器が出土している。盛土の上面は調査区東端付近で東に向かって落ち込む。中世の盛土についても基本的に現地での保存に努め、下層に存在する堤については調査区北・中央・南の三ヶ所で部分的に盛土を掘削して確認を行っている。

調査区北端では井戸（004SE）を検出している。時期は、出土遺物から盛土と同じく12世紀後半頃である可能性があるが、出土量が少なく、盛土との時期的前後関係も不明である。井戸は掘方が南北約3.9 m・東西約2.2 mの長方形で、北側2.7 mが深く掘り込まれている。北側中央では検出面から約1.2～1.6 mの深さで石組枠を検出している。石組枠は直径約1.6 mの円形で、拳大～人頭大の川原石を円筒状に積み重ねて構築されている。井戸は最終的に埋められており、石組枠内には拳大の石が多数入れ込まれている。

古墳時代後期～藤原京期の堤に関しては、中世盛土下で堤上面の東肩であると考えられる落ち込みを確認している。斜面の傾斜は約35～40度である。この肩部より東が堤の斜面、また西～南が堤の上面となる。堤の肩部は調査区北側ではほぼ南北方向、調査区中央付近で緩やかに弧を描いて南側で東西方向に延びようになる。全体としてはL字状のラインを描く。

今回の調査地点は、堤の外辺（池の反対側にあたる）が東西方向から南北方向に屈曲する部分に相当することとなる。検出した東肩を基準に堤上面の東西幅を計測すると、約25～33 mとなる。

調査区北端部では堤上面で大壁建物と柱穴を検出している。大壁建物は平成23年度調査で検出した建物の東半である。大壁建物の南東隅は堤の落ち込みによって遺存していない。仮に

平面がほぼ正方形であったとするならば、東側約0.7 m分が失われていることとなる。これは建物が堤より先行する時期のものであるためか、あるいは後世に流失・削平されたためであるのかは不明である。平成23年度調査の掘立柱塀2の東側延長部分で柱穴を1基検出している。この他、小規模な柱穴を複数検出している。全体としては、堤中央に近い平成23年度調査地点と比較して遺構の数量は少ない。

調査区中央部では、藤原京期に埋められた大溝の西肩を検出している。大溝は平成23・24年度調査でも確認している遺構である。今回検出した肩部は、西肩の北半にあたり、調査区内では東北東－西南西方向に延びる。調査地点周辺での大溝の幅は約15 mである。大溝は堤がL字状に屈曲するコーナー部分に掘られている。

3. まとめ

今回の調査では、堤の東端部周辺についての情報を得ることが出来た。平成26年3月7日には調査成果の報道発表を発掘調査現地にて行っている。

調査区の東半部で、堤上面の東側肩部にあたると思われる落ち込みを検出している。肩部周辺（堤上面および外側斜面）は後世に若干の削平を受けているものの、当初の形状を概ね残していると考えられる。肩部のラインは、調査区内で南北方向から東西方向へと緩やかな弧を描きつつ屈曲している。堤は今回の調査地点でL字状に折れ曲がっていたと考えられる。調査地周辺での堤上面の幅は約25～33 mである。藤原京期の大溝は堤が屈曲するコーナー部分に掘られている。

今回の調査地点は堤の外側（東・北側。池の反対側）にあたる。これに対する池側についての正確な形状は不明である。現在の地形や平成23年度の調査成果を踏まえると、池側の屈曲はより角度の広い「く」字状であった可能性がある。なお、堤の裾は調査区外の北東側に存在する。平成24年度調査で確認した石敷きは堤の裾に関わる遺構であると考えられる。

堤の東側一帯（堤斜面～堤上面東半）には、12世紀後半頃に盛土が施されることを確認している。確認した範囲内での盛土の厚さは最大約2.0 mである。盛土は調査区からさらに東へ続いているが、東端は後世に築かれた「東池」によって削平されていると考えられる。盛土は広範囲に及ぶ大規模な造成工事である。これまでの調査成果からは、古墳時代後期には存在していた池が現在の水田へと変化した時期は10～13世紀のいずれかの時期であると考えられる。今回確認した盛土工事と池の耕地化の時期的な前後関係は不明であるが、中世の早い段階には調査地周辺の景観が大きく変化するような土地改変が行われていたようである。

（石坂泰士）

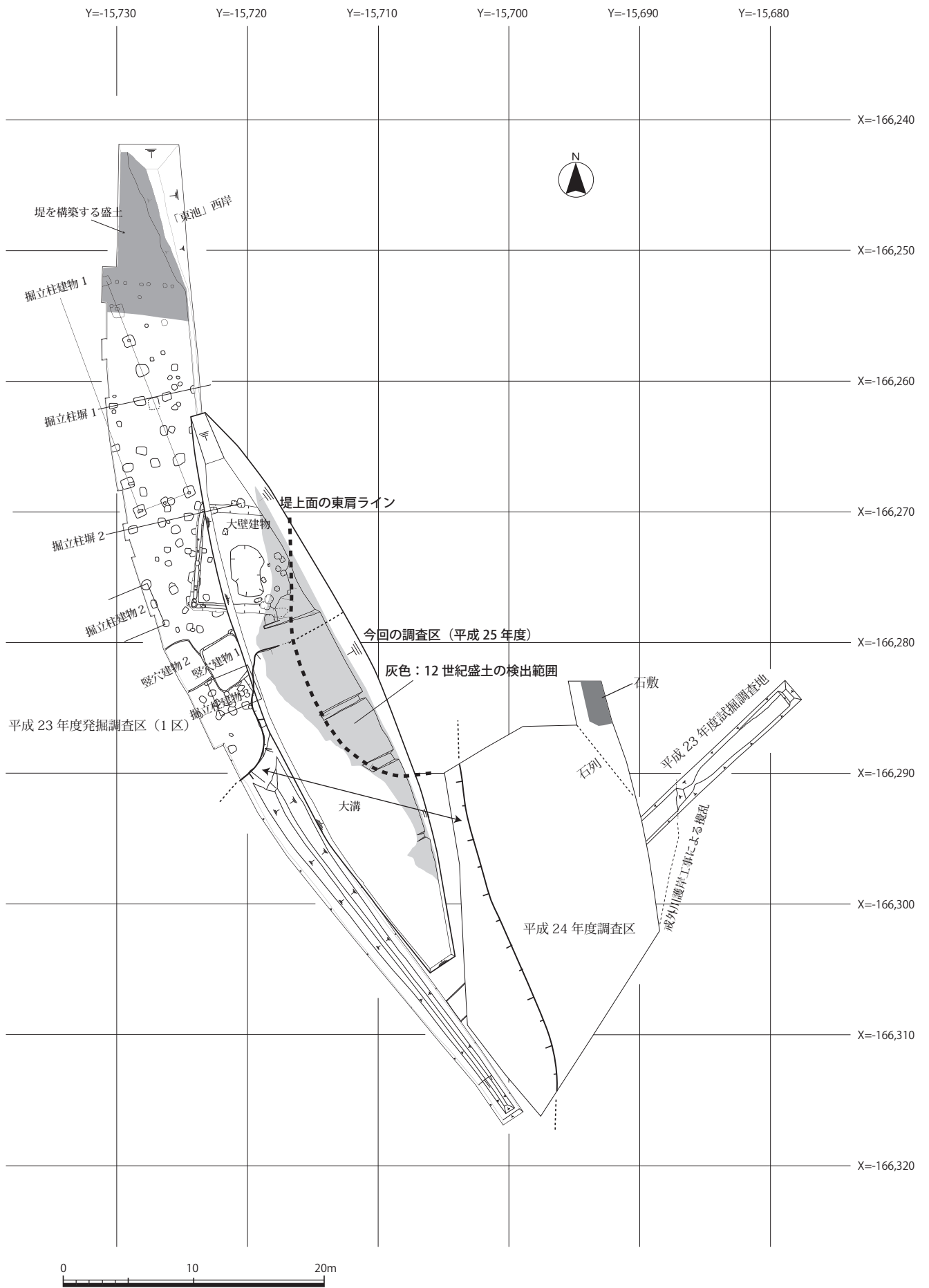


図15 周辺調査平面図 (S=1/400)



写真 69 調査区全景 遺構検出状況 - 北北西から -

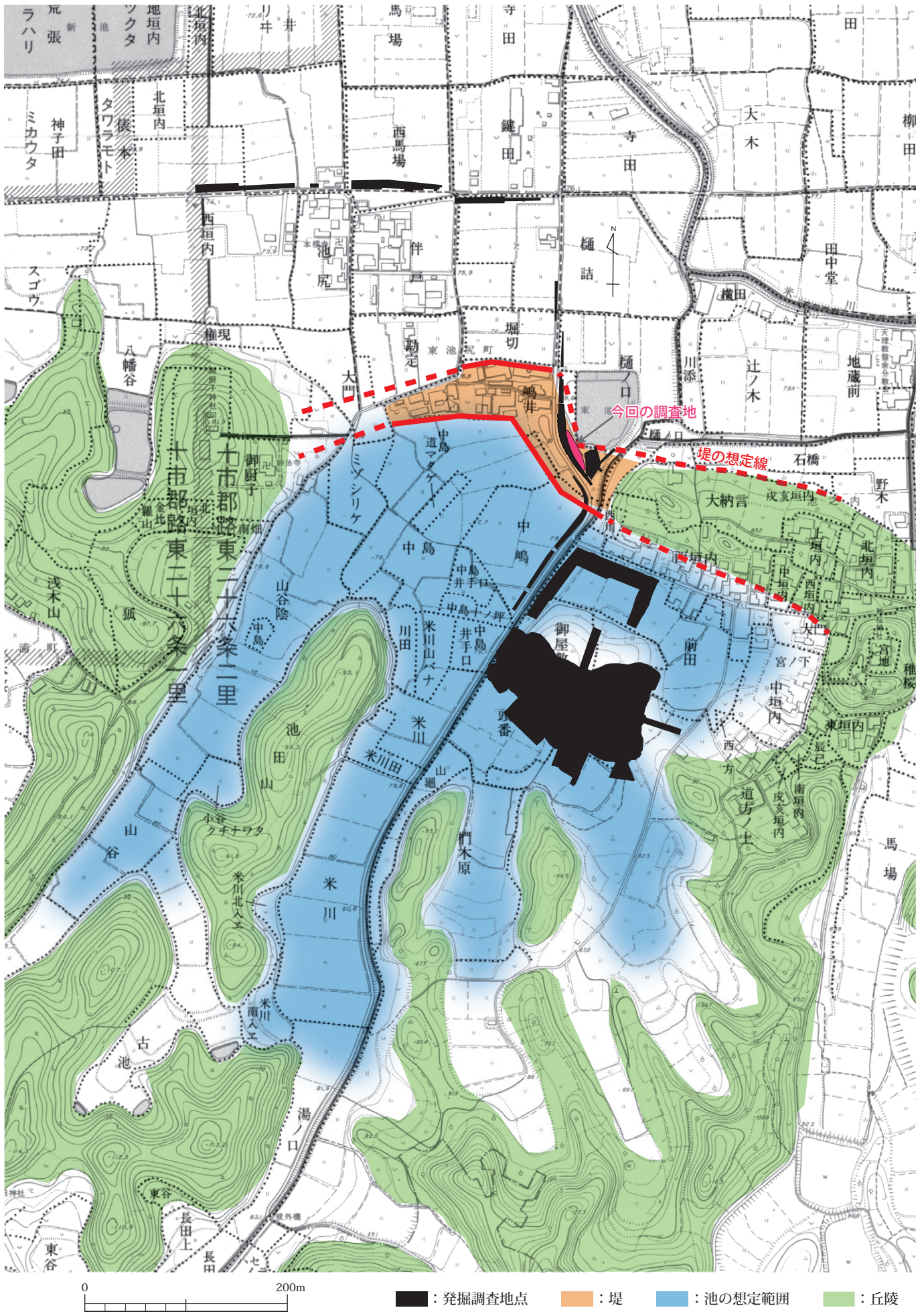


図 16 池・堤 想定復元図 (S=1/5,000)



写真70 調査地中景 堤外方面を望む - 南から -



写真71 調査区中景 堤上・池側を望む - 南東から -

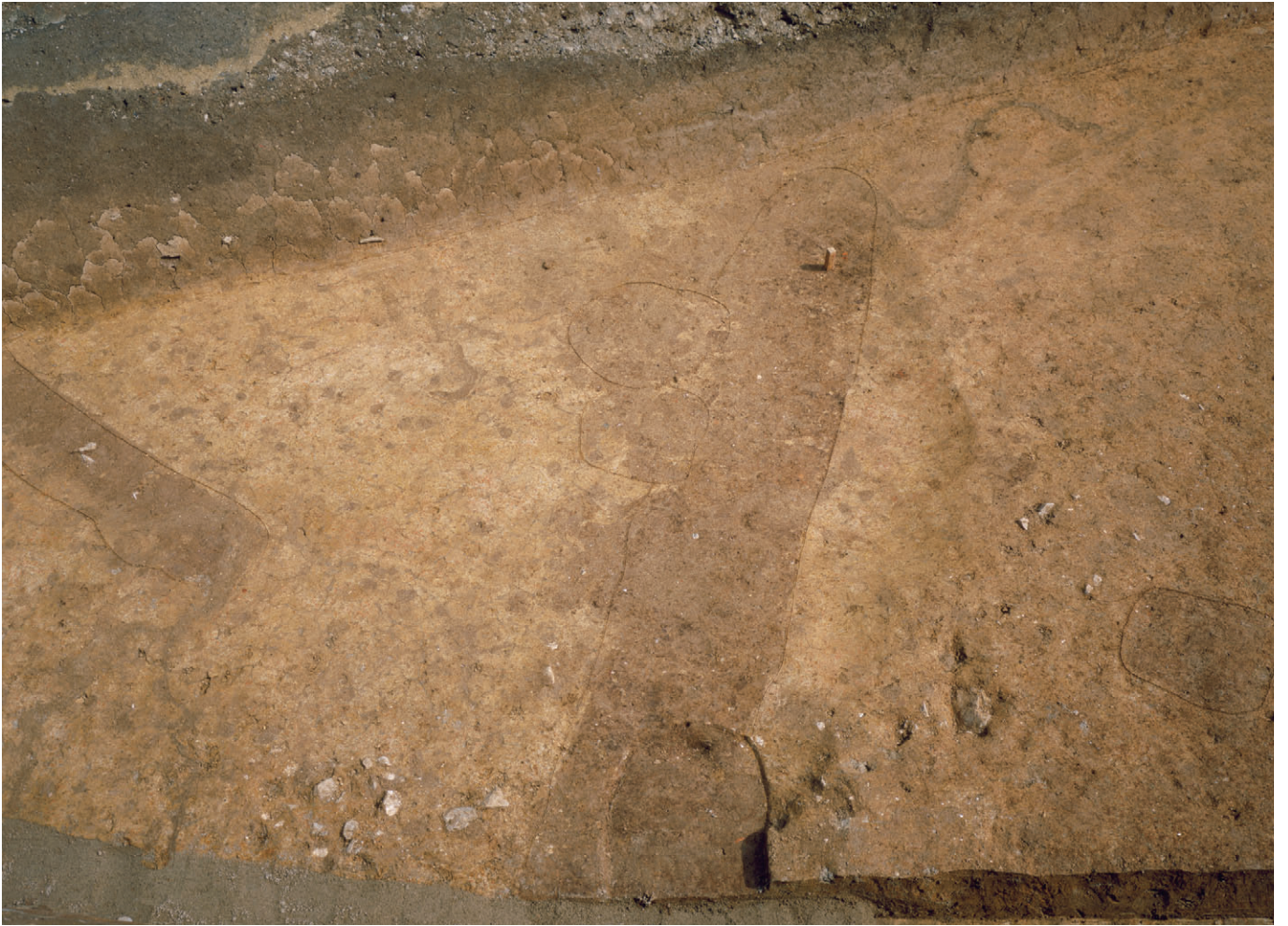


写真72 大壁建物北辺 検出状況 - 西から -



写真73 調査区北部 古代遺構検出状況 - 西から -



写真74 調査区全景 完掘状況 - 南南東から -



写真75 調査区北部 中世盛土断面 - 北西から -



写真76 井戸(004SE) 石組枠検出状況 - 北西から -

Ⅱ . 出土遺物保存処理事業

1. 木製遺物保存処理

発掘調査によって出土した遺物の中には、その材質によって地中から外気に触れることで大きく変形し、劣化・崩壊するものがある。それを防ぎ、出土した状態を保持するため、各材質に応じた化学的処理を行っている。

木を材料として製作された遺物は長時間土の中に埋まっている間に木質内部の組織が水と置き換わってしまい、水を含んだスポンジような状態となっている。そのため、出土後乾燥が進むと変色・変形し元の形を保つことが出来ない。そのため、高級アルコール法を用いることにより、脆弱になった遺物を強化し形状の安定を図った。

保存処理木製遺物一覧

遺 跡 名	遺物名	点数
橿教委2006 - 2次 新堂遺跡 角田地区	人形	1点
橿教委2006 - 5次 東坊城遺跡 今溝地区	板絵 (仏画)	1点

(田原明世)

Ⅲ. 文化財諸申請処理業務

平成 25 年度文化財諸申請処理数一覧表

	踏査願	発掘調査の届出	埋蔵文化財発掘届出					埋蔵文化財発掘通知					現状変更		取下書
			通知内容					通知内容					許可申請	完了届	
			発掘調査	工事立会	慎重工事	工事先行	計	発掘調査	工事立会	慎重工事	工事先行	計			
道路				1	1		2	4	3			7	1	1	
住宅		2	8	10	45		63								1
個人住宅			5	42	163	3	213								1
店舗	1		2	1	3		6								
住宅兼			1		1		2								
その他建物	1		6	6	15		27		2	1		3	8	6	
宅地造成			11	7	1	1	20			1		1			1
その他開発	1												10	9	
ガス等		1			2	1	3		10	1		11		1	
農業関係								1	1			2	1		
学校				1			1		1	4		5			
工場	2		1	1	1		3								1
公園造成														1	
学術													1	1	
遺跡整備									1			1	1		
その他			1	5	3		9	1	18	4		23	3	2	
計	5	3	35	74	235	5	349	6	36	11	0	53	25	21	4
総件数															460

Ⅳ. 普及啓発事業

1. 資料の貸出

文化財の普及啓発事業として、出土遺物や写真等の保管資料の貸出を行っている。

貸出先	貸出資料	借用目的
橿原市（世界遺産推進課）	藤原京復元模型 斜め写真 5 点	藤原京復元模型の 4 面解説 什器のパネルに使用
	東池尻・池之内遺跡 調査風景写真	道標案内板に使用
橿原市（観光課）	織田信長 今井郷惣中宛赦書状 写真 1 点	平成 26 年 6 月 7 日実施、 歴史街道リレー現地講座& ウォーク『信長の朱印状が 語る「今井町」と戦国期の 足跡』告知チラシ・HP 等に て使用
	古代の食卓（貴族・下級役人・庶民）復元資料（復元食品のみ）	観光 P R 事業実施の為
独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所	藤原京跡（右京九条四坊）出土 呪符・古い札木簡 各 1 点、 藤原京跡（右京九条四坊）出土 呪符・習書木簡 各 1 点	全国出土文字資料に関する 資料収集
国土交通省 近畿地方整備局 国営飛鳥歴史公園事務所	益田岩船、菖蒲池古墳 写真 各 1 点	飛鳥歴史公園館内グラフィック・パンフレットに掲載
奈良県立橿原考古学研究所	藤原京復元模型 写真 1 点	第 32 回奈良県立橿原考古学研究所公開講演会ならびに第 3 回奈良県立橿原考古学研究所東京公開講演会冊子への掲載・会場でのプロジェクタ投影に使用

奈良県立橿原考古学研究所 附属博物館	土橋遺跡出土品 (2号方形周溝墓 広口壺1点、21号方形周溝墓 甕2点) 西曾我遺跡出土品 (方形周溝墓 長頸壺1点) 土橋遺跡写真 (2号方形周溝墓 供献土器出土状況、2号 方形周溝墓全景、4号方形周溝墓全景、21号方形周溝墓 供献土器出土状況、調査区全景 (空撮)、調査区全景 各1点) 西曾我遺跡写真 (調査区全景、方形周溝墓 近景 1点) 坪井遺跡写真 (SX-01 人骨検出状況、SX-02 人骨検出状況、 調査区全景 各1点) 曲川遺跡写真 (遺構完掘後 (上が北)、周溝墓 13 南西肩 より出土した土器棺検出状 (南西より)、SD190 (周溝 墓 14) 出土木製品検出状況 (西より)、SD525 (周溝 墓 17・18) 出土土器検出状況 (西より)、同 (南西より)、 弥生時代中期の周溝墓 (周溝墓 1～19) より出土した 土器 各1点)	春季特別展『弥生時代の墓 —死者の世界へ—』での展 示
	四条大田中遺跡出土遺物 フイゴ羽口 3点、フイゴ羽口片 24点、鉄滓一括、 銅滓の付着した須恵器 3点、ガラス滓 2点 藤原京右京五条四坊出土 土馬 8点、てづくね土器 8点	常設展示ならびに研究資料 としての活用
	菖蒲池古墳石棺 写真 1点	子ども考古学講座「めざせ！ 世界遺産登録『飛鳥・藤原』 の宮都とその関連資産群を 知ろう、学ぼう」で使用す る教材への掲載
奈良県桜井土木事務所	史跡丸山古墳の説明板データ	県内外から奈良県中和地域 に数多くある古墳・万葉歌 碑を周遊するキャンペーン に使用
奈良県流域下水道センター	藤原京右京九条四坊 水洗式トイレ発掘写真 1点	専門誌「水神」に奈良県の 下水道歴史遺産を紹介する 文章を掲載
明日香村教育委員会	菖蒲池古墳 南西隅の状況 (平成 22 年度調査)、墳丘北東 角 (平成 24 年度調査)、東堀割外側テラス面の石敷 (平成 24 年度調査) 写真 各1点	『世界に伝えたい飛鳥藤原 の魅力』への掲載
熊本県宇土市教育委員会	植山古墳出土 馬門石製家形石棺 写真 1点	企画展「宇土とヤマト王権」 周知用ポスター・チラシ、 同 展示解説用パネルに使用
葛城市歴史博物館	藤原京右京五条四坊 (下ツ道東側溝) 出土 人面墨書土器レプリカ・海獣葡萄鏡レプリカ・素文鏡レ プリカ・金属製人形レプリカ・木製人形レプリカ・刀形 レプリカ・鈴レプリカ 各1点 (レプリカ所蔵：奈良 県立橿原考古学研究所附属博物館)	平成 25 年度春季企画展『竹 内街道の成立 - 大道を置く -』にて展示
大阪府立近つ飛鳥博物館	藤原京復元模型 写真 1点	展示ガイドブック『もうひ とつの飛鳥からみた日本の 古代』(仮)に掲載
下関市立考古博物館	中曾司遺跡出土絵画土器 写真 4点	平成 25 年度特別展『くら しとまつりの家 - 弥生時代 から古墳時代の建物 -』に 使用
特定非営利活動法人 尾張 小牧歴史文化振興会	藤原京復元模型 写真 1点	こまき歴史探訪の日『日本 城史展』に展示
第 54 回全国栄養教諭・学 校栄養職員研究大会実行委 員会	古代の食卓 (貴族・下級役人・庶民)、諸国の名産品 復 元資料	第 54 回全国栄養教諭・学 校栄養職員研究大会に伴う 展示に利用

株式会社 北國新聞社	藤原京復元模型 写真 1点	『北國文華 第56号(2013年夏)』に掲載
柳原出版(株)	藤原京復元模型 写真 1点	『古代都城の律令祭祀』(仮称)に掲載
株式会社 かぎろひコミュニケーションズ	植山古墳西石室 写真 1点	大和路小誌『やまとみち』129号に掲載
たまゆらスタジオ	神武天皇陵空撮 写真 1点	『歴史めぐり旅 古事記編(仮)』に掲載
株式会社 長大 大阪支社	丸山古墳航空写真 写真 1点	「大和浪漫回廊」古墳カードに使用
株式会社 吉川弘文館	藤原京復元模型 写真 1点	寺崎保広『奈良時代とはどんな時代だったか(仮題)』に掲載
	宮ヶ原1・2号墳 写真 各1点	『大化改新と蘇我氏(仮題)』に掲載
株式会社 山川出版社	藤原京復元模型 写真 1点	『ビジュアル版日本史図録』(仮称)に掲載
	新沢千塚古墳群航空写真 1点	『ビジュアル版日本史図録』(仮称)に掲載
	藤原京復元模型 写真 1点	文部科学省検定教科書『新日本史』に掲載
朝日新聞出版 分冊百科編集部	藤原京復元模型(藤原宮部分) 写真 1点	週刊朝日百科『週刊 新発見!日本の歴史』13号に掲載
株式会社 浜島書店	藤原京復元模型 写真 1点	新詳日本史 学習項目「古代の宮都」中、藤原京を解説する際の学習資料として掲載
株式会社 ベネッセコーポレーション	藤原京復元模型 写真 1点	株式会社ベネッセコーポレーション発行の高校生向け通信教育教材『平成25～27年度 予想問演習 東大文系 地理歴史 第3回』に掲載
株式会社 幻冬舎ルネッサンス	新沢千塚126号墳出土 金製垂飾付耳飾(復元模造品) 写真 1点	『アマテラスの耳飾り 世界最古のヒスイ文化の国、日本をひもとく』に掲載
株式会社 ユニフォトプレスインターナショナル	藤原京復元模型 写真 1点	高等学校日本史資料集『最新日本史図説』に掲載
株式会社 NHK エデュケーショナル	藤原京復元模型 写真 1点	放送大学『歴史と人間(14)』(担当講師:放送大学教授 五味文彦)に使用
株式会社 中経出版	藤原京復元模型 写真 1点	新人物文庫『近鉄沿線謎解き散歩』に掲載
株式会社 毎日放送「ちちんぷいぷい」	「横大路」俯瞰 写真 1点	毎日放送テレビ『ちちんぷいぷい』(9月26日放送)に使用
	藤原京跡の水洗式トイレ遺構 写真 1点	毎日放送テレビ『ちちんぷいぷい』(10月3日放送)に使用
株式会社 秀学社	藤原京復元模型 写真 1点	秀学社『新国語便覧』に掲載
株式会社 新泉社	坪井遺跡出土人物線刻画土器写真 1点	『縄文土偶ガイドブック』に掲載

株式会社 大修館書店	藤原京復元模型 写真 1点	『ビジュアルカラー国語便覧(仮)』に掲載
	藤原京跡(右京九条四坊)出土「龍王」木簡 写真 1点	平川南編『歴博国際シンポジウム 古代日本と古代朝鮮半島の文字文化交流(仮)』に掲載
MBC Gyeongnam	新堂遺跡出土 陶質土器 一括、新堂遺跡出土 遺物整理風景	歴史ドキュメンタリー『安羅伽耶を探して』(仮題)放映に使用
CTV MID ENJIN	藤原京復元模型 写真 1点	河合塾制作「日本史映像授業」に使用
株式会社 NHK エンタープライズ	新堂遺跡出土温石 撮影データ	NHK番組を航空機機内上映向け番組として配信する為『BEGIN Japannology Hot Water Bottles and Pocket Warmers(湯たんぽと懐炉)』(全1話)(2012年2月2日放送28分)
一般社団法人 北海道大学出版会	四条大田中遺跡出土筑形木製品 実測図 2点	荒山千恵編著『音の考古学—楽器の源流を探る』に掲載
株式会社Jプロデュース	史跡植山古墳 東石室家形石棺 写真 1点	中南和観光パンフレットに掲載
株式会社 オフィス303	藤原京復元模型 写真 1点	『事前学習に役立つ!みんなの修学旅行』2巻奈良・大阪に掲載
株式会社 NHK文化センター 名古屋総支社	藤原京復元模型 写真 1点	ヤマト王権・古代史講座「飛鳥・国家誕生の過程とその舞台」の周知に使用
株式会社 悠工房	藤原京復元模型 写真 1点	『新編新しい社会6上』に掲載
株式会社 思文閣出版	坪井・大福遺跡出土人物線刻画土器写真 モノクロ写真 1点	『古代日本の衣服と交通—装う王権つなぐ道—』に掲載
株式会社 オフィス三銃士	丸山古墳 空撮 写真 1点、丸山古墳 東から 写真 1点	宝島社『古墳で見る古代史』(仮題)に掲載
日本文教出版株式会社	藤原京復元模型 写真 1点	文部科学省検定教科書『中学社会歴史的分野』(平成28~31年度使用予定)に掲載
高坂 孟承	植山古墳 東石室 写真 1点	会誌『古代朝鮮文化を考える』第28号への投稿論文に使用

2. 講師派遣

市内外の要請に応じて、講師の派遣を行っている(平成25年4月1日~平成26年3月31日分)。

○5月18日(土)

「大藤原京左京五条八坊・磐余池推定地の調査」

古代学研究会例会 アネックスパル法円坂

平岩欣太

○6月13日(木)

新沢千塚古墳群・柝山古墳・小谷古墳・岩船の散策・解説

橿原市立白樫北小学校6年生総合的な学習「地域の歴史を

知ろう」現地学習

松井一晃

○6月22日(土)

「史跡植山古墳について」

花園大学考古学研究室平成25年度総会講演

濱口和弘

○7月31日(水)

古代の食卓・諸国の名産品 輸送・展示解説

第54回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会 奈良県文化

会館C展示ホール

田原明世

○ 10月26日(土)

「大藤原京左京五条八坊発掘調査成果」現地解説

第133回奈良学文化講座『“ももづたふ磐余池”と発見された堤跡—天香具山から古代磐余の地、吉備池廃寺へ—』

平岩欣太

○ 11月3日(日)・ 12月15日(日)

「発掘調査が紐解く藤原京」

奈良県立橿原考古学研究所公開講演会「日本最初の都城 藤原京」(橿原市・橿原市教育委員会共催)

11月3日:かしはら万葉ホール

12月15日:明治大学駿河台キャンパス リバティータワー

竹田正則

○ 11月17日(日)

橿原市の歴史—横大路歴史散策

真菅地区公民館第13回文化祭 公開講座

竹田正則

○ 11月22日(金)

「新沢千塚古墳群」講演・現地解説

橿原市立新沢小学校6年生社会科校外学習

石坂泰士

○ 2月21日(金)

橿原市の歴史

香具山地域学級・香久山公民館

平岩欣太

3. 八木札の辻交流館

奈良盆地には、盆地を東西に横断する横大路、南北に縦断する上ツ道・中ツ道・下ツ道という幹線道路が古代から存在していた。近世・江戸時代になると、横大路を含む河内から伊勢へと通じる道は、初瀬街道もしくは伊勢街道と呼ばれるようになる。また、下ツ道は中街道と呼ばれるようになり、北は奈良を越えて山城まで達し、南は吉野・紀伊方面に通じていた。この2つの街道の交差点は「八木札の辻」と呼ばれ、江戸時代中期以降、伊勢参りや大峯巡礼などで、大変な賑わいを見せた。

八木札の辻交流館(橿原市指定文化財東の平田家(旧旅籠))は、「八木札の辻」交差点の北東角に立地する、木造2階建の建物である。古文書や建築の構造手法などから、18世紀後半～19世紀前半頃に建てられたと考えられる。江戸時代には、「八木・木原屋、嘉右衛門」という屋号の旅籠を営み、大阪から八木を通り、伊勢に至るまでの宿泊所を示した「大阪難波講伊勢道中記御定宿附」という冊子の中で、「浪速講」に属する正規の宿として紹介されている。旅籠を営んでいた当時は、1階が接客及び主人の居室部分として、2階が宿泊施設として利用されていた。

平成17年に空家となったことで雨漏り等による老朽化が進行し、修理が必要な状況となった。「八木札の辻」という歴史的立地状況にあり、かつ希少な旅籠建築を現代に伝える建物であったことから、平成22年6月に市文化財に指定し、土地を購入、建物は所有者より寄贈を受けた。その後、平成22・23年度に修理・整備工事(半解体工事)を行い、平成24年7月から一般公開を開始した。建物の見学は無料である。八木の町並みを散策する拠点として活用される施設づくりを進めている。なお2階の客間6室は、句会や演奏会などの各種イベントに使用出切る施設として有料で貸出を行っている。

主催事業

○ 愛宕祭期間内における夜間特別開館

平成25年8月23日(金)～25日(日)

○ 箏こんさーと(勝美会)

平成25年8月23日(金)～25日(日)

○ 講演会

平成26年3月8日(土) 菅谷文則氏(奈良県立橿原考古学

研究所長)「八木のまちを歩き交う人々—中街道を中心に—」

平成26年3月16日(日) 森下恵介氏(奈良市埋蔵文化財

調査センター長)「八木札の辻のにぎわい今昔—古代～現代—」



写真77 箏こんさーと 演奏風景



写真78 HANARART 展示風景

八木札の辻交流館 施設使用料

施設		時間	
		9:00～12:00	12:00～17:00
2階	客間1・2・5・6 (8畳間)	1室につき 300円	1室につき 510円
	客間3・4 (6畳間)	1室につき 240円	1室につき 410円

施設利用状況

① 館利用者数

	開館 日数 (日)	入館者		小計 (人)	貸室		合計 (人)
		日本人観光者 (人)	外国人観光者 (人)		件数 (件)	利用者数 (人)	
合計	301	8,044	15	8,059	25	1,020	9,079

(※「奈良・町家の芸術祭HANARART2013」は貸室数1日を1件として計上している)

② 貸室利用状況

	利用形態	期 間	内 容	貸室状況
1	貸室	4/7 (日)	邦楽 (箏・三絃・尺八) 演奏会	全 室
2	貸室	4/29 (月)	電子楽器テルミン体験ワークショップ	客間 6
3	貸室	6/23 (日)	落語講演会	客間 2～5
4	貸室	7/2 (火)	俳句会	客間 5
5	市主催	7/14 (日)	橿原市中央公民館主催講座「地方史教室」	全 室
6	貸室	7/26 (金)	箏・尺八練習	客間 6
7	市主催	8/29 (木)	ケイ・オプティコムe o光テレビ企画番組 橿原市長インタビュー撮影	全室
8	市主催	9/20 (金)	横大路 1400 年記念イベント	全室
9	市後援	9/21 (土)～9/30 (月)	「奈良・町家の芸術祭HANARART 2013」 八木エリア会場	全 室
10	貸室	10/19 (土)	電子楽器テルミン体験ワークショップ	客間 6
11	貸室	11/2 (土)～11/3 (日)	奈良県高等学校文化連盟小倉百人一首かるた部門 奈良県高等学校総合文化祭	全 室
12	貸室	11/24 (日)	和楽器練習	客間 6
13	貸室	11/26 (火)	和楽器練習	客間 6
14	貸室	1/17 (金)	市立晩成小学校 6 年生総合的学習	全 室
15	貸室	1/30 (木)	県立畝傍高校小倉百人一首かるた部練習	全 室

4. 書籍刊行

『史跡 植山古墳』 橿原市埋蔵文化財調査報告 第9冊

2014年3月28日発行 橿原市教育委員会 編

5. 発掘調査成果報道発表

東池尻・池之内遺跡、大藤原京左京五条八坊の発掘調査

報道発表日：平成26年3月7日（金）

発表場所：橿原市東池尻町地内 発掘調査現場

6. 説明板等の設置・管理

市内に所在する文化財についての普及、啓発を図る目的で説明板を設置している。

なお、平成25年度は、1基の万葉歌碑説明板を新たに設置した。

7. 千塚資料館改修事業

平成24年度から休館し、当館を文化財行政の拠点施設として、当市の歴史遺産を代表する史跡新沢千塚古墳群や藤原京跡の出土資料をメインとするとともに、原始から近世までの市内

遺跡出土資料を展示し、その資料の一部に触れることで直接歴史の息吹が感じられる体験・体感が可能な魅力ある博物館に改修した。

(1) 千塚資料館展示改修業務

期間：平成24年7月27日～平成26年2月28日

受注者：(株)乃村工藝社

(2) 千塚資料館展示ケース製作及び設置業務

期間：平成24年10月31日～平成26年2月28日

受注者：(株)乃村工藝社

8. 文化財課執務室移転

平成25年8月10日（土）、橿原市小房町11-5かしはら万葉ホール内から橿原市川西町858-1へと文化財課執務室の移転作業を行った。平成25年8月12日（月）からは新執務室で業務を行っている。



写真79 改修後の常設展示室へのアプローチゾーン

V. 史跡整備事業

史跡地の公有化

史跡公園整備に向け、史跡指定地の公有化を図っている。

【丸山古墳】

所在地：橿原市五条野町・大軽町（図17）

概要：越智岡丘陵の東、高取川をはさんで東に続く台地の西端に、前方部を北にして築かれた6世紀後半の大型の前方後円墳である。

墳丘全長310m、後円部径150m、前方部幅210mを測り、県下最大の前方後円墳古墳である。石室の全長は26m以上あり、玄室内に2個の家形石棺があることが判明している。

(1) 公有化基本方針

現在、古墳の前方部の一部は国道169号線によって分断された状態にあり、完全な前方後円墳としての形は整えていないが、墳丘の大部分と東側の周濠や周庭帯は部分的にその姿をとどめている。可能な限り古墳本来の姿を保ちつつ、市民生活の中に活用し、保存と活用を調和させながら将来にわたる本市の象徴の一つとしたい。

(2) 公有地化計画

史跡の現況を考慮し3地区に分類し、地区ごとの計画を定める。なお、今後も調査研究や地域の社会環境の変化に応じて地域区分に修正を加えていくものとする。

【植山古墳】

所在地：橿原市五条野町（図18）

概要：甘樫丘から延びる丘陵の西端に位置する東西約40m、南北約27mの方墳である。墳丘の北・東・西側には周濠が巡る。埋葬施設は2基の大型横穴式石室が東西に並ぶ。東石室は全長13m、玄室長約6.5m、玄室幅約3.2mを測る両袖式で、玄室には阿蘇溶結凝灰岩製の削り抜き式家形石棺が置かれている。西石室も全長13m、玄室長約5.2m、玄室幅約2.5mを測る両袖式で、玄門部床面には扉を設置した闕石がある。本古墳は6世紀末から7世紀前半に属すると考えられる。

(1) 公有化基本方針

古墳の保存を前提に、埋葬施設や墳丘等の修復・復原を行い可能な限り公開する。古墳の歴史的な価値と地域住民にとっての公園的機能を併せた整備を行う。また、本市と周辺自治体を含む遺跡群のネットワーク化を行い、本史跡を全体ネットワーク上での拠点として整備する。

(2) 公有地化計画

史跡公園の整備に伴い、地権者に対し当初の土地区画整理事業計画のような土地利用ができなくなることから、史跡指定地の大半の公有化を行った。公有化された場所については、今後公開に向け整備に取り組んでいく。



図17 丸山古墳史跡指定範囲図 (S=1/8,000)



図18 植山古墳史跡指定範囲図 (S=1/4,000)

VI. 指定文化財維持管理事業

1. 草刈

史跡地及びその周辺への雑草の影響を軽減し、また見学者が快適に見学できるように配慮し、年1回以上の草刈を実施している。

【作業箇所】

国指定特別史跡本薬師寺跡、国指定史跡新沢千塚古墳群、国指定史跡丸山古墳、国指定史跡菖蒲池古墳、国指定史跡植山古墳、県指定史跡小谷古墳

2. 修理事業

指定建造物の修理事業について、経費の部分補助を行っている。

【解体修理】重要文化財建造物称念寺本堂

【部分修理】重要文化財建造物高木家住宅

県指定文化財建造物旧上田家住宅（丸田家住宅）

3. 管理事業

毎年行われる文化財防火デーにおいては、消防署と文化財所有者立会いの下、消防設備の点検を消防署と合同で行っている。

【点検実施箇所】

○国指定建造物榎原神宮本殿（久米町）、国指定建造物人麿神社本殿（地黄町）、国指定建造物久米寺多宝塔（久米町）、国指定建造物称念寺本堂（今井町）、国指定建造物正蓮寺大日堂（小綱町）、国指定建造物瑞花院本堂（飯高町）、国指定建造物今西家住宅（今井町）、国指定建造物豊田家住宅（今井町）、国指定建造物上田家住宅（今井町）、国指定建造物音村家住宅（今井町）、国指定建造物河合家住宅（今井町）、国指定建造物高木家住宅（今井町）国指定建造物旧米谷家住宅（今井町）、国指定建造物森村家住宅（新賀町）

○県指定建造物山尾家住宅（今井町）、県指定建造物旧上田家住宅（丸田家住宅）（今井町）、県指定建造物旧高市郡教育博物館（今井町）、県指定建造物吉川家住宅（山之坊町）

○市指定建造物旧常福寺観音堂付棟札（今井町）、市指定建造物順明寺表門（今井町）

VII. だんじり保存事業

市内に現存する優れただんじりを普及・啓発し後世に伝承することを目的とし、だんじりに関する調査、研究並びにだんじりの維持管理事業を行っている。現在、榎原市には保存会により江戸時代末期から明治時代にかけて製作されただんじりが10台（十市町7台・今井町2台・小綱町1台）が保存されて

いる。

【平成25年度だんじり維持管理】

提灯カン取替・絆天作成

平成 25 (2013) 年度 橿原市文化財調査年報

発行日 平成27 (2015) 年 3 月 31 日

編集・発行 奈良県橿原市教育委員会
〒634 - 0826 奈良県橿原市川西町858 - 1
TEL 0744 - 22 - 4001 (代)

印刷 関西美術印刷 (株)
奈良県奈良市西木辻町153番地1
TEL 0742 - 62 - 3000
